

平成 24 年度
(2012)
事業報告書

社会福祉法人 山輝会
ウェルフェア・グランデ明石
プライム江井ヶ島

平成 24 年度 (2012) 社会福祉法人山輝会事業報告書

ウェルフェア・グランデ明石

- ・ 特別養護老人ホーム部門 (本館) P 1 ~
- ・ 特別養護老人ホーム部門 (アネックス) P 1 4 ~
- ・ 通所介護うらら部門 P 1 8 ~
- ・ 通所介護きらら部門 P 2 1 ~
- ・ 訪問介護部門 P 2 3
- ・ きぬがわ居宅介護支援事業部門 P 2 4
- ・ グループホームプリランテ明石部門 P 2 5 ~
- ・ 総務部事業報告 P 2 8

プライム江井ヶ島

- ・ 特別養護老人ホーム部門 P 2 9 ~
- ・ 短期入所生活介護部門 P 3 4
- ・ 通所介護部門 P 3 5

平成24年度事業報告書

報告日	平成25年 4月30日
部門名	生活課
責任者	龍造寺 千恵子

項目	累計 収入	
	稼働率	収入
目標	96.5%	268,338千円
実績	95.5%	271,322千円
差異	-1.0%	2,984千円
達成率	99.0%	101.1%

視点	重点取組課題	目標値	総括
	<p>特養稼働率 98%</p> <p>空床ベッド 380床以下/年</p> <p>空床ベッドを減らす</p>	<p>【総括】</p> <p>全体稼働率 95.5%</p> <p>【特養】</p> <p>年間稼働率 98.3%</p> <p>新規入居者 12名 (前年比 -81日)</p> <p>空床数 307日 (前年比 - 2日)</p> <p>外泊による空床 3日 (前年比 - 1日)</p> <p>平均入院日数 16.1日 (前年比 +0.9日)</p> <p>延べ入院者数 15名 (前年比 -5名)</p> <p>入退居時の平均空床 5.1日 (前年比 +0.2日)</p> <p>退居者数 12名 (死亡退居 11名 長期入院 1名)</p> <p>入院による空床 242日 (前年比 -78日)</p> <p>退居による空床 62日 (前年比 - 2日)</p> <p>外泊による空床 3日 (前年比 - 1日)</p> <p>平均入院日数 16.1日 (前年比 +0.9日)</p> <p>入退居時の平均空床 5.1日 (前年比 +0.2日)</p>	<p>・入院者の減少、入院期間の長期化を抑えられたことが稼働率の向上に直結した。 また、ロングステイから入居への案内が上手くいった事、事前面接済みの方を3名確保していた事もあり、新たな入居者を探すと云うことが無かった。</p> <p>・「日常生活継続支援加算」の算定を7月より開始した。 「経口維持加算」に関しては算定の試算を行ったが、手間と取得単位のバランスを考慮して算定を見送った。 また、「認知症行動・心理症状緊急対応加算」については算定可能ケースが無かった。</p>
財務状況の改善	<p>新たな加算を算定する</p> <p>平均介護度を維持する</p>	<p>23単位/日</p> <p>200単位/日 (7日間)</p> <p>平均介護度 3.70</p>	<p>・平均介護度は年度末時点で3.69となったが目標値に到達することは無かった。新入居者(12名)の平均介護度は4だったが、年度途中の認定更新で2名の方が要介護1の認定を受けられたことの影響が大きい。介護度の軽度化は喜ばしい反面、収入減を意味するものであり、毎年このことから頭を悩ませる所である。</p>
	<p>ロングステイ利用者を確保する</p>	<p>SS稼働率 92%</p> <p>ロングステイ 3名</p>	<p>【短期】</p> <p>年間稼働率 87.1%</p> <p>新規利用者 74名 (リビート率 63%)</p> <p>《稼働率低下の原因》</p> <p>①9月には疥癬、翌年2月にはノロウイルス感染症による利用受入れ中止があった。 ②ロングステイ利用者が施設入居された後、新規のロング利用者確保できず、ミドルステイに止まったことによる空床が出来てしまった。 ③新規利用者は介護度が低く、利用日数も短期のため稼働率には直結しなかった。リビーターの確保を重点に取り組みべきと考えている。</p>
	<p>SS利用者の途中退居を減らす</p>	<p>SS利用者の途中退居を減らす</p>	<p>・利用途中退居者は2名で、脳梗塞の発症による緊急入院と転倒による硬膜下血腫での入院があった。 利用中の事故、体調不良による途中退居は大幅に減少したが、秋日から脱水やそれに起因するであろうと考えられる脳梗塞の発症もあり、キャンセルが相次いだ。</p>
	<p>営業活動を行う</p>	<p>営業活動を行う</p>	<p>・独居の方を中心に選層、選業目的での利用案内をケアマネジャー、ご家族に行い好評を得たため次年度も継続する。 ・近隣の居宅介護支援事業所への訪問活動を行い、ケアマネジャーからの紹介を頂くケースは増えた。空き状況を伝えるだけでなく、施設に求められていることや、他事業所の特徴等の情報収集も行ない、サービス提供に反映できないか検討材料にしていきたい。</p>

視点	重点取組課題	目標値	総括
財務状況の改善	コスト削減	オムツ年間購入金額 2,353,193円 (前年比 +58,836円)	<ul style="list-style-type: none"> ・オムツ代金については前年を上回る結果となり、単純な使い方の問題ではなく排泄ケア自体の見直しが必要と受け止めている。 ・消耗品を管理する倉庫に物品単価を掲示して無駄遣いの抑制に取り組んだ。一部使用量の減少も見られたが、洗濯洗剤、使い捨て手袋、ペーパータオル等、使用頻度の高い物品の使用量削減には繋がらなかった。目標設定を行っておらず、職員の意識も薄らぎました。 ・次年度は明確な目標を掲げて無駄遣いの削減に取り組む。 ・継続して行っている節電の取組みは徐々に習慣化しつつあるが、どの程度効果が出ているのかが分かりにくいとの声もあるため、毎月の光熱水費を示すことで職員の意識向上に繋げることとする。
	トランスファー技術を身につける	担ぐトランス、スライド移乗をみんながマスターする	<ul style="list-style-type: none"> ・RXプロジェクトチームが中心となり11月から毎月、第2、4木曜日 14:30～15:30に移乗研修を実施し、延49名が参加した。振り返りの良い機会となり、参加者からは「Oさんの移乗が苦手だから教えて欲しい」等の声も聞かれ、積極的な姿勢で取り組むことが出来た。 ・職員から最も高いニーズとして拳がった研修であったが、移乗技術の習得が目標となつてしまひ、何のための技術であるのかを理解していなかった。また、担ぐトランス、スライド移乗にこだわりすぎ、安全性や負担軽減にまで配慮できておらず、反省すべきことが多々あり、自立支援に向けた介助方法を学ぶ必要性を感じた1年であった。
	お年寄りの心をくすぐる取組みをする		<ul style="list-style-type: none"> ・買物以外の外出支援として、コンサート、野球観戦、温泉旅行、蕎麦参り、釣り等、はつきりと希望を伺う事の出来る方には対応することができた。ただ、自分から希望・要望を伝えられない方の思いを引出すことは難しく十分にお応えする事は出来ていなかったように思う。 ・プロジェクトチームの活動の一環として、行事等の写真を壁新聞として年3回掲示した。お年寄り、ご家族様からは好評であり、しっかりとした手応えを感じた。 ・ご利用者を交えてのフロア会議を各フロアで開催した。食事の要望や職員のマナーについて等、忌憚のない貴重な意見を聞かせて頂く事ができたが、十分に伝えきれない面もあり、次年度の課題として残った。 ・忘年会はコンベンション方式を採用した。4グループの立候補があり、生活課会議でプレゼンテーションを行い決定した。 ・企画の進め方については従来の担当者のみで行う方法ではなく、役割分担を行いみんなで作る事で協力して準備を行った。連携不足等の問題もあつたが、行事企画の進め方を学ぶ良い機会となつた。 ・また、ご家族様をお招きしたことで、ご家族同士の交流も生まれ喜んで下さる方が多く、有意義な時間を過ごして頂くことが出来た。
サービスの強化	家族からの信頼を得る	ターミナルケアを任せて頂ける	<ul style="list-style-type: none"> ・少しずつではあるが、ご家族様とのコミュニケーションはとれるようになり、情報交換も行えるようになってきた。フロアスタッフへ直接電話をされるご家族も増えており、スタッフとの距離は縮まってきていると感じているが面会に来られないご家族様に対して如何に情報を発信して、信頼関係を構築していくのかは検討の余地がある。 ・お年寄りの身嗜み、居室のタンス整理を含めてフロア内の衛生管理は課題が多かつた。安全と安心して生活していただける衛生的な環境を維持する為にも日常業務の見直しが必須であると考えている。 ・忘年会を家族参加型にしたことで、好評を得ることが出来たため次年度は家族参加の行事企画の充実を図りたいと考えている。正月行事では法運補習の黨を準備し、作り方までレクチャーして下さる方もあり、協力的なご家族に助けられているのを感じた。 ・施設で最期を迎えられたお年寄りは7名おられた。人の死を見届けることに對して職員間の温度差があり、ターミナルケアの意味を理解していなかった。何か自分達にできることは無いのかと考えているうちに亡くなられたケースもあり、行動の遅さを痛感したこともあつた。アスカンファレンスを行い、お年寄りの死から学びたいことは決して頂いたことは決して頂いていくことを皆で確認した。
	SS利用者心地よく過ごして頂く	忘れ物ゼロ	<ul style="list-style-type: none"> ・新規利用者へのフロア案内やお年寄りへの紹介をきつちりと行えたことで、他のSS利用者や入居者の方が声をかけて下さることが増え、緊張、不安を和らげて下さり非常に助けて頂いた。 ・また、職員のフロア異動でどちらのフロアをご利用頂いても顔なじみの関係があり、安心してご利用いただくことが出来た。 ・ご利用者を退屈させないために、遊びリレーションやカラオケなどを実施した。単発での実施となつてはいるが、多数で参加できる体操などの基本プログラムと、個別の希望に応じたプログラムを決めておき、継続性のあるサービス提供ができるように次年度は検討していきます。 ・【忘れ物数】 上半期:9件 下半期:9件 (※資料Ⅱ 添付) ・荷物チェックはマニュアルを作り、実施者を明確にすることで責任感を持つて実施できるように取り組んだ。 ・しかしながら、チェックミスや衣類が他利用者さまに忘れられまひ探しているものもあり、忘れ物ゼロへの取組みとしては不十分であった。 ・また、物の紛失や荷物間違ひがあつた際に、「誰かが探してくれてくれるだろう」と考える職員もあり対応が遅れて苦情を受けたことがあつたため、会議で認識の甘さを正していくように話し合いの場を設けた。 ・連絡帳での情報交換は、まだまだ職員からの情報伝達ノートとなつてはいるため、双方向のやりとりができるように工夫していきたい。
	困つてる人を受け入れる		<ul style="list-style-type: none"> ・虐待ケース、感染症発生時等にも柔軟に対応できるように、静養室を整備した。(10月) ・幸い、緊急を要する利用事例は無かつたが、今後も受け入れ態勢を維持しておく必要性は感じている。

視点	重点取組課題	目標値	総括
	居残り解消	勤務終了後1時間以内の退勤	<ul style="list-style-type: none"> 各種会議で検討を重ねて慢性的な居残り解消に取り組んだ結果、居残り時間数は前年度と比較して約1/3(月平均:300時間)に短縮することが出来た。これまで勤務時間終了後になっていた記録時間を勤務内に組み込み、スタッフ同士で声を掛け合い意識的に記録時間をとり、集中して記録を行う為にスタッフチームのレイアウト変更も実施した。また、ケース記録の書式変更、利用者のグループ分け等もを行い、記録にかかるとの負担を軽減した。 会議や研修会も勤務時間内での開催が習慣化してきたが、時間に追われて十分な検討が出来ず結果に結びつかない事もあるため今後も引き続き工夫が必要であると認識している。
業務の改善	一人のお年寄りをチームで支える	毎月開催する	<ul style="list-style-type: none"> 入居者担当をグループ担当として、フロアを3グループに分けた。職員ひとりだけで抱え込まず、チーム内の職員が集まりグループカンファレンスを開催する等の動きがあり、職員同士の意見交換は活発に行う事が出来た。(3階) 反面、グループ内での決定事項が他職員に伝達されない事も多く情報共有の面では課題が残った。 RXプロジェクターをチームを中心に、アニバーサリー計画に取組んだがチームの活動内容がはっきりせずメンバー自身が何をしているのかさえ理解出来ない状態になってしまったものの、3階の対象入居者についてはご家族の協力を得て委譲できた。
	委員会活動を盛り上げる		<ul style="list-style-type: none"> 【食事委員会】 6回開催/年 <ul style="list-style-type: none"> 栄養士に参加してもらい、美味しい食事を提供する為の方法を検討した。味付け等、ケアフードとの協力が必要な事柄は給食委員会で提案して改善を図った。また、活動費を利用して「摂食嚥下機能、食事形態、食事ケアのポイント」についての外部研修に2回参加してメンバーのスキルアップに取組んだ。 ・下半期は、食べこぼし改善にも取組んだが成果は出ていないため、次年度の繰越課題とした。 【排泄委員会】 3回開催/年 <ul style="list-style-type: none"> ・オムツ倉庫に準備品を貼り付ける、エコバックの使用、各居室トイレに排泄セットを設置する等、環境整備の活動を中心に行った。排泄ケアはフロア、グループ担当任せとなり、委員会として取組むことができなかった。年度末に「いきいき体操DVD」を購入し、便秘解消のための運動を積極的に取り入れたと考えている。 ・9月に開催されたユニチャームメンソックの研修会で事例発表を行った。 【入浴委員会】 4回開催/年 <ul style="list-style-type: none"> ・実質的な活動は殆んど無く、入浴用の椅子を作成することが中心となった。 【身体拘束・事故防止委員会】 2回開催/年 <ul style="list-style-type: none"> ・11月に「虐待について」の内部研修を開催したが、それ以外に目立った活動はできなかった。両フロアリーダーが構成員となっていたため、フロア毎に独自の取組みとなり委員会の役割を果たせなかった。 【褥瘡委員会】 1回開催/年 <ul style="list-style-type: none"> ・2月に「褥瘡予防」の内部研修会を開催した。褥瘡の利用者もあり、褥瘡予防に取組まなければならないことは分かっていたが何もしることが出来なかった。 【食中毒・感染症対策委員会】 5回開催/年 <ul style="list-style-type: none"> ・手洗いの徹底や、食事場面での環境を見直す等、食中毒、感染症予防に取組んだ。フロア会議でもモニタリングを継続して行い、職員の意識付けには一定の成果は感じていたが、結果として疥癬、ノロウイルスが発生してしまい予防策が不十分だったと言わざるを得ない。また、感染症発症時の委員会の役割も不明瞭であり、スタッフ個々の知識、技術の未熟さが表面化し、次年度の課題と捉えている。
人材、継続力の強化	伝える力、聞く力を養成する	人前で自分の意見をはっきり伝える	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の良い所に向け、直接言葉で伝える為に「ほめほめカード」を活用して思いを言葉にする訓練を行った。最初は関心を示したが直接手渡す事が出来ず、メモのようにメールボックスに入れてしまい長続きしなかった。対人権助産生業とする者にとって語が出来ない事は大きな問題であり、次年度の重要取組み課題とした。 ・下半期からはケース記録の書式を職員の思い、考えを記入できる形に変更した。 ・プリセプターシップは昨年度の反省を活かして、プリセプターは経験を持つものがあたる方が良いと判断した。何かを教えなければいけない等の堅苦しさは無く、良き相談相手として関わることが出来た。誰かに気にかけてもらえる事は心強く、安心感を与えられるものであり、新人職員のみならず中途採用職員にも活用していきたいと考えている。

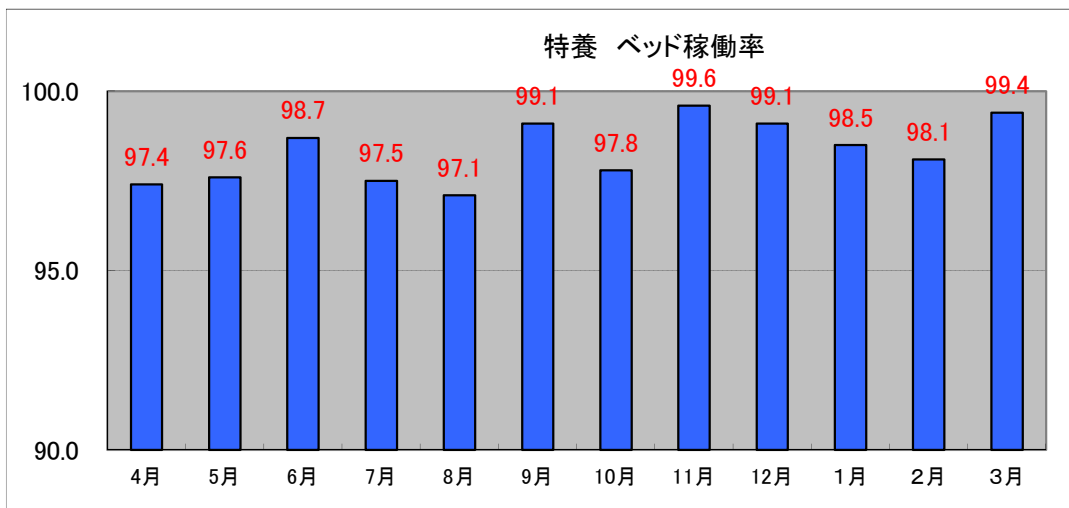
視 点	重点取組課題	目 標 値	総 括
人材、組織力の強化	看護職員のスキルアップ		<ul style="list-style-type: none"> ・上半期に喀痰吸引等の研修を行い、看介護職員の連携の必要性について学んだ。また、下半期には課内研修として竹内孝仁先生のブックレットを中心に学び、スキルアップに繋げた。今年度学んだ事柄を次年度に実践で活かしていきたい。
	リーダーのスキルアップ		<ul style="list-style-type: none"> ・法人研修、外部研修、内部研修に積極的に参加した。内部研修では、問題解決プロセスの理解を深めた。事故や苦情、ケアの問題等、フロアで生じる様々な事柄をどの様に整理、分析する事で効果的な行動につなげられるのかを事例を交えて学んだ。実践で十分に活かすきれていない面はあるが、今後も継続して取り組むべき課題であると認識している。 ・スタッフとのコミュニケーションは、共に考え行動することを実行計画としたが、一方通行や偏りが見られ、課題が鮮明となった。注意・指導に偏ったコミュニケーションではなく、プラス面に着目したコミュニケーションの必要性に気づくことが出来た。また、何かを言うてくるまで待つのではなく、リーダーからの積極的な関わりが必要と感じた1年であった。 ・他部署との意見交換の場が必要と認識しながら実行できなかった。自ら働きかけ行動する姿勢がリーダー自身にも問われる結果となった。
	情報を共有する		<ul style="list-style-type: none"> ・生活課会議を5回/年 開催した。 ・年度当初より申し送り、引継ぎ方法についてはリーダー会議、フロア会議の場で繰り返し議論を重ね、ホワイトボードの廃止、業務日誌、引継ぎ簿の書式変更等を行う事で情報共有の徹底を図った。

平成24年度 生活課 事業報告(資料 I)

No. 1 ベッド稼働率、コスト管理

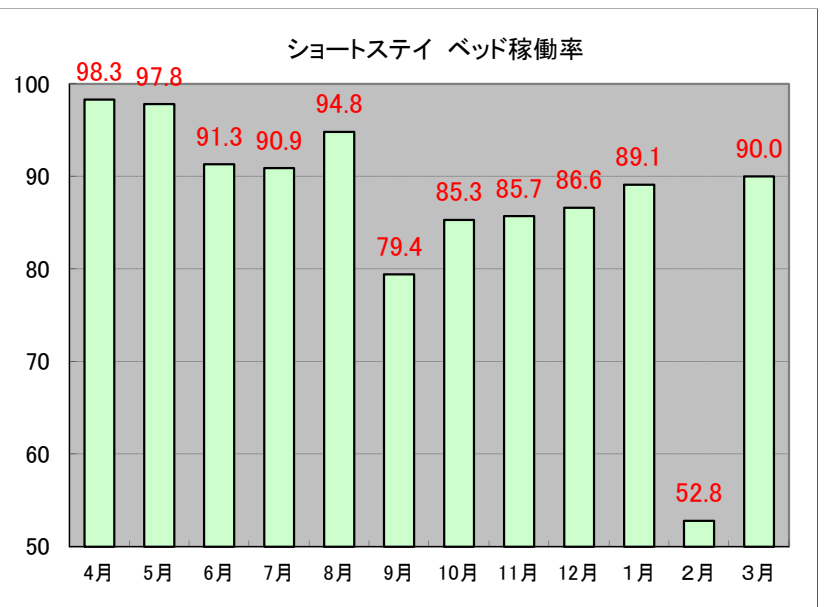
【平成24年度 特養(本館)稼働状況】

月	本来日数	実日数	稼働率	入居	退居	退居理由	入院日数	外泊日数	空床日数	空き合計
4	1560	1520	97.4%	0	0		40	0	0	40
5	1612	1573	97.6%	1	1	死亡	34	0	5	39
6	1560	1540	98.7%	1	2	死亡	10	1	9	20
7	1612	1572	97.5%	2	1	死亡	21	0	9	30
8	1612	1566	97.1%	2	2	死亡	35	1	10	46
9	1560	1546	99.1%	0	0		14	0	0	14
10	1612	1577	97.8%	1	1	死亡	30	0	5	35
11	1560	1553	99.6%	1	1	死亡	0	1	6	7
12	1612	1598	99.1%	0	0		14	0	0	14
1	1612	1588	98.5%	1	2	死亡	17	0	7	24
2	1456	1428	98.1%	1	0		23	0	5	28
3	1612	1602	99.4%	2	2	死亡、入院	4	0	6	10
合計	18980	18663	98.3%	12	12		242	3	62	307



【平成24年度 短期入所生活介護 ベッド稼働率】

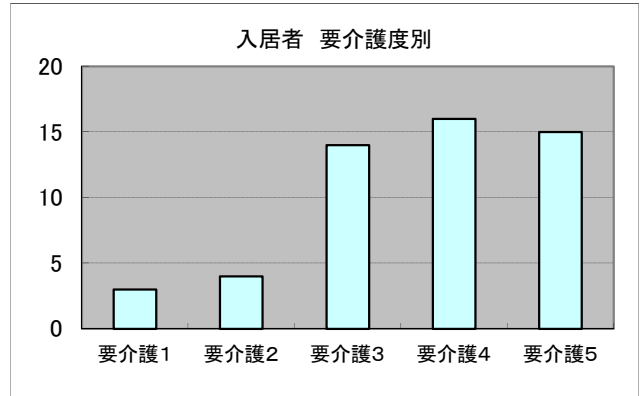
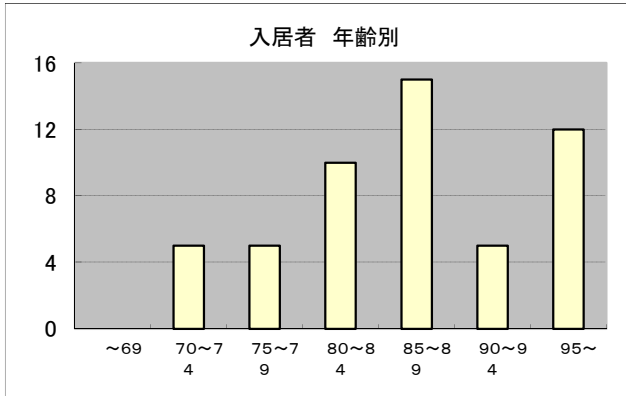
月	本来日数	実日数	稼働率(%)
4	540	531	98.3%
5	558	546	97.8%
6	540	493	91.3%
7	558	507	90.9%
8	558	529	94.8%
9	540	429	79.4%
10	558	476	85.3%
11	540	463	85.7%
12	558	483	86.6%
1	558	497	89.1%
2	504	266	52.8%
3	558	502	90.0%
合計	6570	5722	87.1%



【平成25年3月31日現在 本館入居者 年齢・要介護度一覧】

年齢(歳)	人数(人)	%
～69	0	0.0%
70～74	5	9.6%
75～79	5	9.6%
80～84	10	19.2%
85～89	15	28.8%
90～94	5	9.6%
95～	12	23.1%
合計	52	100.0%
平均年齢 86.8歳(男性 79.2歳 女性 88.8歳)		

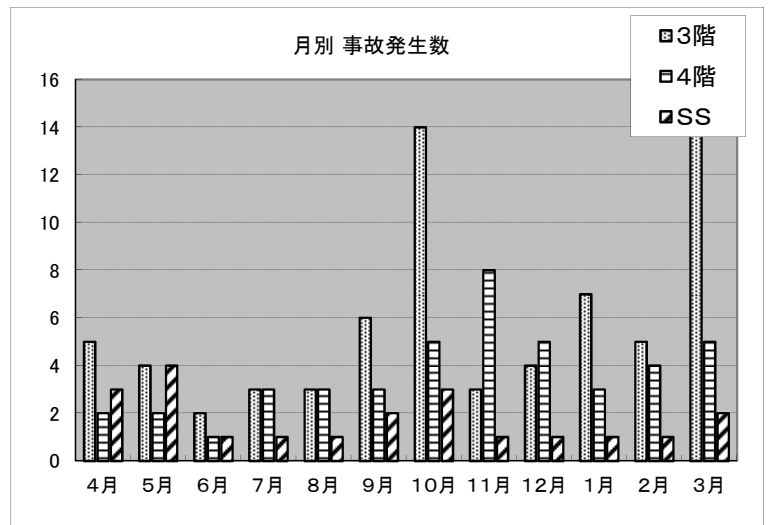
介護度	人数(人)	%
要介護1	3	5.8%
要介護2	4	7.7%
要介護3	14	26.9%
要介護4	16	30.8%
要介護5	15	28.8%
合計	52	100.0%
平均介護度		3.69



No. 2 事故発生数

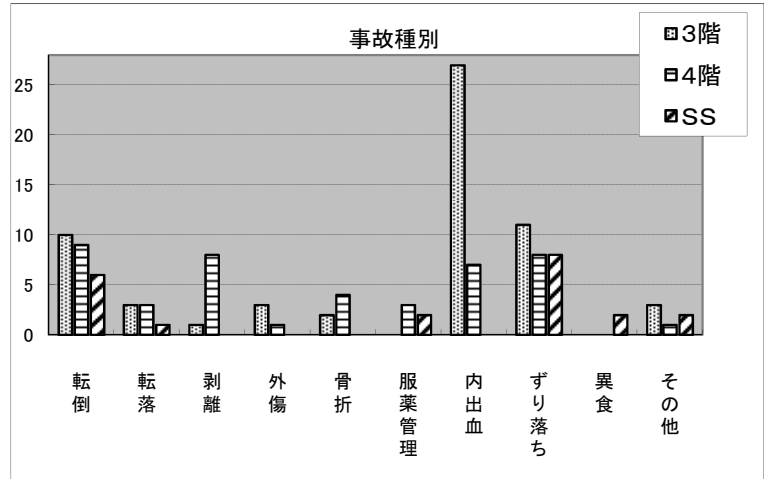
《月別 事故発生数》

月	3階(件)	4階(件)	SS(件)	計(件)
4月	5	2	3	10
5月	4	2	4	10
6月	2	1	1	4
7月	3	3	1	7
8月	3	3	1	7
9月	6	3	2	11
10月	14	5	3	22
11月	3	8	1	12
12月	4	5	1	10
1月	7	3	1	11
2月	5	4	1	10
3月	14	5	2	21
計	70	44	21	135



《事故報告 内訳》

種別	3階	4階	SS	計
転倒	10	9	6	25
転落	3	3	1	7
剥離	11	8	0	19
外傷	3	1	0	4
骨折	2	4	0	6
服薬管理、与薬ミス	0	3	2	5
内出血	27	7	0	34
ずり落ち	11	8	8	27
異食	0	0	2	2
その他(火傷、離脱等)	3	1	2	6
合計	70	44	21	135



保険者への事故報告数	特養:6件 SS:1件
------------	-------------

No. 3 行事・企画 実績

実施年月日	企画・行事名	入居者・SS	家族	ボランティア
平成24年 5月 21、31日	SS外出企画「明石公園」	4名	0名	0名
平成24年 5月 25～26日	お風呂祭り	延べ135名	0名	0名
平成24年 6月 23日	4階フロア企画「水ようかん作り」	36名	0名	0名
平成24年 6月 25日	3階フロア企画「たこ焼き作り」	27名	0名	0名
平成24年 6月 26、28日	SS外出企画「住吉神社」	4名	0名	0名
平成24年 8月 4～5日	合同お風呂祭り	延べ140名	0名	0名
平成24年 9月 2日	山輝会祭り	65名	67名	多数
平成24年 9月 9～16日	敬老祝い	延べ213名	0名	25名
平成24年 10月 20～21日	一泊旅行「有馬温泉」	9名	5名	0名
平成24年 11月 28日	3階フロア企画「たこ焼き作り」	30名	0名	0名
平成24年 12月 5日	歳末餅つき大会	40名	0名	21名
平成24年 12月 16日	忘年会	67名	37名	0名
平成25年 1月 1～11日	正月行事	延べ165名	1名	0名
平成25年 1月 26日	4階フロア企画「たこ焼き作り」	37名	0名	0名
平成25年 2月 3日	節分行事	66名	0名	0名
平成25年 2月 26日	4階フロア企画「ホットケーキ作り」	35名	0名	0名
平成25年 3月 17日	風船バレーボール大会	61名	1名	0名

No. 4 研修実績

【施設外研修 参加実績】

月 日	研修名・主催者	参加人数
平成24年 5月 31日(木)	兵庫県社協「老人福祉施設新任職員研修」	2名
平成24年 6月 7日(木)		3名
平成24年 6月 14日(木)		2名
平成24年 6月 13日(水)	兵庫県社協「新任リーダー研修」	1名
平成24年 8月 7日(火)		1名
平成24年 7月 19日(木)	東播磨ブロック研修②「楽技介護で即実践！利用者が喜ぶ介護講座②」	1名
平成24年 10月 12日(金)	東播磨ブロック研修③「高齢者施設におけるターミナルケア」	2名
平成24年 11月 13日(火)	東播磨ブロック研修④「プロの認知症ケア～認知症のお年寄りが教えてくれること～」	2名
平成24年 11月 16日(金)	県老協 リーダー育成研修会「介護リーダーの仕事術」	1名
平成25年 1月 10日(木)	明石市保健福祉施設協会「高齢者虐待について」	2名
平成25年 1月 24～25日	兵庫県社協「接遇・日常マナーリーダー研修」	1名
平成25年 3月 4～5日	全老協 相談員研修会「2025年の介護保険制度と事業への展望」	1名
平成25年 3月 11日(月)	県老協 職員研修会「スタッフのモチベーションアップを考える」	2名
平成25年 3月 12日(火)	報告会、記念講演会「日中オムツゼロ達成特養、地域のための新しい特養の誕生」	5名
合 計		26名

※ 内部研修報告書(資料Ⅲ)は別紙 添付

No. 5 会議開催実績

【3階フロア会議】

年月日	主な議題
平成24年 4月 15日	今年度のフロア運営について
平成24年 4月 12日	利用者からの意見を聞く
平成24年 5月 8日	居残り解消
平成24年 5月 30日	申し送り、フロアレイアウト
平成24年 6月 13日	フロアレイアウト、申し送りの見直し
平成24年 6月 26日	申し送り、ボードの見直し
平成24年 7月 9日	夜勤体制、業務日誌のモニタリング
平成24年 7月 26日	〃
平成24年 9月 8日	勤務の帯について
平成24年 9月 28日	〃
平成24年 9月 29日	内出血増加に対する対応
平成24年 10月 5日	情報共有について
平成24年 11月 9日	勤務の帯のモニタリング、配薬業務
平成24年 11月 23日	業務日誌、申し送りのモニタリング
平成24年 12月 7日	居残り解消
平成24年 12月 23日	感染症対応、居残り解消
平成25年 1月 8日	ショートステイ対応
平成25年 1月 26日	ショートステイ対応
平成25年 2月 2日	次年度事業計画について
平成25年 2月 16日	夜勤業務について
平成25年 3月 4日	排泄ケアの取組み
平成25年 3月 19日	仕事への取組み姿勢

【リーダー会議】

年月日	主な議題
平成24年 4月 6日	平成24年度の課内体制
平成24年 5月 7日	担当制、申し送りについて
平成24年 5月 20日	居残り解消
平成24年 6月 19日	申し送り、業務日誌の変更
平成24年 7月 13日	業務分析、業務日誌の改善
平成24年 8月 10日	フロアの取組み報告
平成24年 9月 19日	業務日誌、申し送りについて
平成24年 10月 6日	ケース記録、業務日誌について
平成24年 10月 31日	ケース記録、業務日誌のモニタリング
平成24年 11月 8日	内部研修について
平成24年 12月 14日	居残り解消、フロアの課題分析
平成24年 1月 11日	次年度事業計画について
平成24年 2月 22日	次年度事業計画について
平成24年 3月 29日	業務分担について

【4階フロア会議】

年月日	主な議題
平成24年 4月 12日	今年度の体制確認
平成24年 4月 21日	配薬の取決め事項について
平成24年 5月 3日	配薬のモニタリング、利用者の声を聞く
平成24年 5月 22日	居残り解消、担当制の確認
平成24年 6月 7日	居残り、SS荷物チェック、申し送り
平成24年 6月 29日	申し送り、業務日誌の見直し
平成24年 7月 12日	事故対応、引継ぎ方法の見直し
平成24年 7月 25日	SS荷物チェック、感染症対応
平成24年 8月 21日	感染症対応、ケア体制の確認
平成24年 9月 8日	苦情対応
平成24年 9月 26日	業務日誌、引継ぎの見直し
平成24年 10月 16日	上半期の振り返り
平成24年 11月 16日	ケース記録書式変更後のモニタリング
平成24年 12月 13日	感染症対応、居残り解消
平成25年 1月 17日	フロアレイアウト、環境について
平成25年 2月 23日	業務分析
平成25年 3月 7日	業務分担

【医務会議】

年月日	主な議題
平成24年 10月 29日	看護判断について

【生活課会議】

年月日	主な議題
平成24年 4月 9日	今年度の体制確認
平成24年 6月 21日	申し送り、夜勤勤務の見直し
平成24年 8月 23日	申し送り、夜勤勤務変更後のモニタリング
平成24年 10月 29日	居残り解消、忘年会のコンペ
平成25年 1月 15日	今年度事業計画の振り返り

【サービス担当者会議】

年月日	実施回数
随時開催	80回/年間

※ ケースカンファレンス、モニタリングは適宜開催

No. 6 音楽療法 活動実績

指導音楽療法士 竹田 典子 先生

実施日	参加人数	実施場所
平成24年 4月 3日	27名	地域交流スペース
平成24年 4月 17日	16名	地域交流スペース
平成24年 5月 1日	17名	地域交流スペース
平成24年 5月 15日	14名	地域交流スペース
平成24年 6月 5日	14名	地域交流スペース
平成24年 6月 19日	17名	地域交流スペース
平成24年 7月 3日	15名	地域交流スペース
平成24年 7月 17日	14名	地域交流スペース
平成24年 8月 7日	12名	地域交流スペース
平成24年 8月 21日	15名	地域交流スペース
平成24年 9月 4日	14名	地域交流スペース
平成24年 9月 18日	14名	3階ダイコーナ

実施日	参加人数	実施場所
平成24年 10月 2日	15名	3階ホール
平成24年 10月 16日	10名	3階ホール
平成24年 11月 6日	16名	3階ホール
平成24年 11月 20日	14名	地域交流スペース
平成24年 12月 4日	12名	地域交流スペース
平成24年 12月 18日	10名	3階ホール
平成25年 1月 8日	13名	地域交流スペース
平成25年 1月 22日	15名	地域交流スペース
平成25年 2月 19日	14名	地域交流スペース
平成25年 2月 26日	18名	地域交流スペース
平成25年 3月 5日	15名	地域交流スペース
平成25年 3月 19日	13名	3階ホール

No. 7 実習生・研修生 受け入れ実績

月 日	実 習 名	学 校 名	人 数
平成24年 6月4日～20日	相談援助実習 前期	大阪人間科学大学	1名
平成24年 11月5日～21日	相談援助実習 後期		
平成24年 7月9日～23日	介護福祉実習 I-①	姫路福祉保育専門学校	2名
平成24年 8月1日～9月6日	社会福祉実習	関西福祉大学	2名
平成24年 10月1日～10月31日	ソーシャルワーク実習 前期	神戸学院大学	2名
平成24年 12月1日～12月28日	ソーシャルワーク実習 後期		
平成24年 10月10～11日	社会福祉施設・教育施設体験研修	明石市職員	3名
平成24年 10月15日～11月20日	介護福祉実習 II	姫路福祉保育専門学校	3名
平成25年 1月21日～2月22日	介護福祉実習 I-②	姫路福祉保育専門学校	3名
合 計			16名

No. 8 定期ボランティア 活動実績

活 動 者	活 動 内 容	活 動 日	活 動 場 所	活動回数
竹田 典子 様	ピアノ演奏	毎月第1.3週火曜日 14:00～15:00	各フロア	20回
竹田 有里 様	音楽療法の補助	毎月第2.4週火曜日 10:30～11:30	地域交流	20回
長渡 節子 様	音楽療法の補助	〃	〃	10回
中山 邦子 様	音楽療法の補助	〃	〃	12回
ボランティアグループ「あじさい」	喫茶手伝い	毎月第1.3週水曜日 13:30～15:30	〃	15回

No. 9 クラブ活動 活動実績

ク ラ ブ 名	部 員 数	活 動 日	活 動 場 所	活動回数
書道クラブ	5名	4回/月 不定期の開催	ダイコーナ	37回

※部員数は平成25年3月31日現在

平成24年度 ショートステイ忘れ物(資料Ⅱ)

《上半期》

退居日	利用者名	物 品	原 因	対 応	
3 階	4月8日	連絡ノート	入れ忘れ	次の利用時までお預かりした。	
	4月23日	液体薬のカップ	洗浄後、入れ忘れ(チェック未記入)	ご家族より廃棄希望あり、廃棄した。	
	5月20日	靴下	洗濯室に干したまま(チェックミス)	翌日お届けした。	
	6月22日 (午前退居)	林さと様	フェイスタオル	ホールに置き忘れ	当日お届けした。
			ズボン下	洗濯に紛れ込んでいた。	
	8月19日	小田 かつの 様	フェイスタオル パジャマ	入居者の洗濯物に紛れ込んでいた。	翌日お届けした。
4 階	4月20日	靴下	洗濯室に干したまま(チェックミス)	翌日お届けした。	
		歯磨きセット (コップ、歯ブラシ、歯磨き粉)	紛失	新しいものを購入し、利用後にお渡しした。	
	4月26日	中田 敏子 様	ハンドタオル	居室に置き忘れ	翌日お届けした。
	5月26日	中濱 淑子 様	フェイスタオル	ホールに置き忘れ	当日お届けした。
			カーディガン		
	6月22日	兵庫 絹子 様	目薬	夕食時の点眼後に入れ忘れ	翌日お届けした。
6月29日	松本 タミヨ 様	フェイスタオル	同室者(和室)のタンスに紛れ込んでいた。	次の利用時までお預かりした。	

《下半期》

退居日	利用者名	物 品	原 因	対 応	
3 階	12月26日	ズボン下	入居者の洗濯物に紛れ込んでいた。	翌日お届けした。	
	12月26日	ひざ掛け	脱衣場に置き忘れ	翌日お届けした。	
	1月8日	土居 リツ子 様	靴	中履きの靴と履き替え忘れ。	当日お届けした。
	1月14日	藤本 美巳 様	靴下	洗濯室に干したまま(チェックミス)	翌日お届けした。
	3月13日	松本 義樹 様	パンツ	既に退居された堂本様の荷物に紛れ込んでいた。	翌日お届けした。
	3月17日	赤藤 尚子 様	コップのフタ	紛失	新しいものを購入し、次の利用後にお渡しした。
4 階	10月7日	中濱 淑子 様	居室トイレに置き忘れ	次の利用時までお預かりした。	
	12月30日	西脇 茂 様	洗濯室に干したまま(チェックミス)	翌日お届けした。	
	3月28日	酒井 君子 様	ホールに置き忘れ	当日お届けした。	

平成24年度 生活課 内部研修実施報告(資料Ⅲ)

全体研修

日 時	研 修 名	研 修 内 容	担 当 者	参加人数	参加者
平成24年 4月 7日(土)11:10~12:30	緊急対応研修①	防災について	高 曾 昌 司	7名	佐々木、秋山、多賀、山本、佃、古川、高曾
平成24年 5月 17日(木)14:00~16:30	マナー研修	入居者、ご家族、同僚と良好な関係を築く方法	龍造寺 課長	14名	太田、飛鷹、三島、井元、池田、松浦、芝本、高見、武智、川添一瀬、高曾、三谷、龍造寺
平成24年 6月 3日(日)14:00~15:30	相続・成年後見制度について	成年後見制度の理解を深める	(講師)司法書士 穴田 智久 先生	ご家族25名 職員12名	
平成24年 7月 4日(水)15:30~17:00	緊急対応研修②	発熱・脱水・誤嚥・転倒時の対応	一瀬 明美	6名	佐々木、秋山、山本、佃、古川、一瀬
平成24年 7月 30日(月)14:00~16:00	外部研修報告会①	外部研修報告	外部研修参加者	13名	太田、山本、古川、佃、池田、井元、松浦、芝本、井上、川添秋山、多賀、龍造寺、三谷
平成24年 8月 18日(土)14:30~16:00	ケアに活かす記録	ケアに活かすためのケース記録の書き方	三谷、井上、芝本 高曾、堂路	13名	芝本、秋山、藤原、赤田、太田、池田、高橋、齋田、村田、一瀬高曾、龍造寺、三谷
平成24年 11月 24日(土)14:30~16:00	身体拘束・虐待防止	虐待に繋がらない為に自分達ができること	太田 創、芝本 陽子	12名	益中、武智、荒井、高見、井元、松浦、三島、村田、太田、芝本高曾、三谷
平成24年 11月 29日(木)14:30~15:45	外部研修報告会②	外部研修報告	外部研修参加者	13名	太田、齋田、佃、佐々木、高橋、芝本、荒井、武智、多賀、秋山村田、一瀬、三谷
平成25年 1月 29日(木)14:00~16:00	接遇・マナー研修	マナー向上のために実践できること	三谷 彰	13名	太田、佃、齋田、榎本、池田、荒井、高見、益中、多賀、村田高曾、龍造寺、三谷
平成25年 2月 19日(火)14:30~15:45	褥瘡研修	褥瘡予防について	芝本 陽子、三島 恭子	10名	藤原、森、齋田、赤田、多賀、中西、芝本、三島、高曾、三谷
平成25年 3月 30日(土)14:00~16:00	口腔ケア研修	口腔ケア指導内容の振り返り	指導を受けた 介護職員	11名	太田、池田、齋田、高橋、多賀、赤田、中西、榎本、村田、藤田高曾

RX研修

日 時	研 修 名	研 修 内 容	担 当 者	参加人数	参加者
平成24年 4月 13日(金)10:00~18:00	RX研修①	食事・入浴・排泄ケアのデータ分析 入浴ケア改善のためにできること	青山 幸広 先生	8名	斎田、三島、飛鷹、太田、益中、藤原、龍造寺、三谷
平成24年 8月 3日(金)10:00~18:00	RX研修②	トランスファ―研修	青山 幸広 先生	8名	斎田、三島、飛鷹、太田、益中、藤原、芝本、三谷
平成24年 11月 15日(木)10:00~18:30	RX研修③	お年寄りと外出 お年寄りの情報収集	青山 幸広 先生	7名	斎田、三島、飛鷹、益中、藤原、芝本、龍造寺

トランスファ－研修

日 時	研 修 名	研 修 内 容	担 当 者	参加人数	参加者
平成24年 11月 27日(火)14:30～15:30	トランスファ－研修	移乗介助の実技研修	RXプロジェクトチーム	8名	斎田、古川、佃、角田、益中、武智、中西、赤田
平成24年 12月 6日(木)14:30～15:30	トランスファ－研修	移乗介助の実技研修	RXプロジェクトチーム	6名	佃、井元、荒井、甲斐、齋藤、三島
平成24年 12月 17日(木)14:30～15:30	トランスファ－研修	移乗介助の実技研修	RXプロジェクトチーム	7名	飛鷹、松浦、榎本、佃、川添、秋山、益中
平成25年 1月 10日(木)14:30～15:30	トランスファ－研修	移乗介助の実技研修	RXプロジェクトチーム	7名	松浦、斎田、榎本、池田、秋山、中西、益中
平成25年 1月 24日(木)14:30～15:30	トランスファ－研修	移乗介助の実技研修	RXプロジェクトチーム	5名	三島、榎本、佃、齋藤、益中
平成25年 2月 28日(木)14:30～15:30	トランスファ－研修	移乗介助の実技研修	RXプロジェクトチーム	6名	飛鷹、榎本、多賀、池田、高見、益中
平成25年 3月 14日(木)14:30～15:30	トランスファ－研修	移乗介助の実技研修	RXプロジェクトチーム	5名	飛鷹、藤原、森、中西、益中
平成25年 3月 28日(木)14:30～15:30	トランスファ－研修	移乗介助の実技研修	RXプロジェクトチーム	5名	飛鷹、三島、榎本、中西、益中

リーダー職員研修

日 時	研 修 名	研 修 内 容	担 当 者	参加人数	参加者
平成24年 10月 8日(月)14:00～16:00	リーダー研修①	問題解決のためのプロセスを理解する	三谷 彰	4名	太田、芝本、高曾、三谷

看護職員研修

日 時	研 修 名	研 修 内 容	担 当 者	参加人数	参加者
平成25年 1月 11日(金)10:30～12:00	看護職員研修①	生活モデルの理解、自立支援介護「水」	三谷 彰	4名	一瀬、堂路、藤田、三谷
平成25年 1月 30日(水)13:00～14:15	看護職員研修②	自立支援介護「排泄」「運動」	三谷 彰	4名	一瀬、堂路、藤田、三谷

プリセプター研修

日 時	研 修 名	研 修 内 容	担 当 者	参加人数	参加者
平成24年 5月 10日(木)15:00～16:30 平成24年 6月 5日(火)15:00～16:30	プリセプター研修	プリセプターの意見交換	三谷 彰	7名	池田、飛鷹、三島、藤原、井上、龍造寺

フロア研修

日 時	研 修 名	研 修 内 容	担 当 者	参加人数	参加者
平成24年 9月 14日(金)14:30～15:30	3階 フロア研修①	介護とはなにか	太田 創	7名	三島、池田、高橋、松浦、山本、佐々木、太田
平成24年 5月 30日(水)15:00～16:00	4階 フロア研修①	自分を知る	芝本 陽子	6名	藤本、高見、藤原、多賀、秋山、芝本
平成24年 7月 19日(木)14:30～15:45	4階 フロア研修②	ホスピタリティについて	芝本 陽子	6名	多賀、川添、甲斐、荒井、秋山、芝本
平成24年 12月 25日(火)14:30～15:30	4階 フロア研修③	認知症ケア実践発表	芝本 陽子	6名	益中、荒井、甲斐、赤田、村田、芝本

喀痰吸引等に関する研修

日 時	研 修 名	研 修 内 容	担 当 者	参加人数	参加者
平成24年 5月 24日(木)14:00～16:00 平成24年 5月 29日(火)14:00～16:00	介護職員による医療的ケアの実施に係る研修	呼吸器の仕組み、喀痰を生じる疾患 口腔内吸引実施ガイドラインの理解	一瀬 明美	19名	太田、齋田、井元、池田、芝本、益中、井上、村田、川添、飛鷹 三島、佐々木、高橋、藤原、荒井、武智、高見、渡利、一瀬
平成24年 6月 8日(金)14:00～16:00 平成24年 6月 12日(火)14:00～16:00 平成24年 6月 14日(木)14:00～16:00	介護職員による医療的ケアの実施に係る研修	消化器の仕組み、経管栄養が必要となる疾患、胃瘻による経管栄養実施の ガイドラインの理解	一瀬 明美	19名	太田、齋田、井元、池田、芝本、益中、井上、村田、川添、飛鷹 三島、佐々木、高橋、藤原、荒井、武智、高見、渡利、一瀬
平成24年 7月 10日(火)14:00～16:00 平成24年 7月 24日(火)14:00～16:00 平成24年 7月 30日(月)14:00～16:00	介護職員による医療的ケアの実施に係る研修	経管栄養、口腔内吸引のDVD視聴 吸引機器、経管栄養に必要な物品の 取扱いについて	一瀬 明美	19名	太田、齋田、井元、池田、芝本、益中、井上、村田、川添、飛鷹 三島、佐々木、高橋、藤原、荒井、武智、高見、渡利、一瀬
平成24年 8月 11日(土)11:00～15:00 平成24年 8月 16日(木)11:00～15:00 平成24年 9月 7日(金)11:00～15:00 平成24年 9月 20日(火)11:00～15:00 平成24年 9月 25日(水)11:00～15:00	介護職員による医療的ケアの実施に係る研修	経管栄養、口腔内吸引の見学、実践	一瀬 明美	19名	太田、齋田、井元、池田、芝本、益中、井上、村田、川添、飛鷹 三島、佐々木、高橋、藤原、荒井、武智、高見、渡利、一瀬

その他

日 時	研 修 名	研 修 内 容	担 当 者	参加人数	参加者
平成24年12月17日(月)～12月30日(日)	フロア交流研修	フロア間交流		2名	古川、多賀
平成25年1月14日(月)～1月27日(日)	フロア交流研修	フロア間交流		2名	佃、武智

平成24年度事業報告書

報告日	平成25年5月3日
部門名	アネックス
責任者	吉田 久嗣

収入 稼働率	項目	累計
	稼働率	収入
	目標	98.0%
	実績	278,989千円
	差異	279,423千円
達成率	97.4%	
		434千円
		100.2%

視点	重点取組課題	目標値	総括
財務状況の改善	稼働率の向上	稼働率98%	平成24年度は死亡に伴う退居者が16名、入院に伴う退居者が3名で合計19名の入居者と別れをさせて頂いた(H23年度は15名)。この死亡退居に伴う新しい入居者受入までにかかった平均空床日数は7日/月だった。特筆すべきは、9月に二人入ってすぐに、疥癬が流行り12月に入ってノロウイルスが流行った状況の中で、この期間、感染予防の観点から新規受入を見合わせ、ある程度終息するのを待って受け入れを行った経緯がある。このことが大きく影響し、平成24年度の平均稼働率は95.5%/月だった。また稼働率低下に影響のあった入院については、年間延40件の入院者があり、そのうち1ヶ月程度の入院者が10名実在したことも稼働率低下に繋がったと考える。入院者及び死亡退居者を年間通じて軽減させていく為には、普段のケアの質の向上が必要で、入院や死亡と密接に連動していると考え。
	コスト削減(水道光熱費の節約)	平成23年度使用量より削減	電気使用量は昨年度より8025(kWh)超過、ガス使用量は昨年度より1434(kWh)削減、上下水道使用量は昨年度より271(m ³)削減している。電気使用量の超過については、夏場の暑さや冬の寒さが影響していると考え。一方で、デマンドアタターから得られる、夕方の16:00~18:00の時間帯における電力オナーの日数も昨年度より多かった状況の中で、プリランとアネックスで合算されてデータが出ていたことで、オナーの内容が分析しにくい環境だったことは、今後の課題と考える。また、ガス使用量と上下水道使用量は、アネックス職員間で入浴時のお湯の使い方を再度検証し、改めて節約に努めたことで節水に繋がったものと考え。
	コスト削減(おむつ代)	合言葉を理髪した開りを徹底した結果、オムツ代が平成23年度実績(240000円以下/月)より削減。	オムツ代については、年間2957206円(税込)となり、今年度月平均が246433円/月(税込)を計上している。昨年度実績から、月平均60000円程度の超過額となった。費用削減に繋がらなかった結果とあわせて、改めてオムツに頼る介護から脱却していく必要性を感じた1年だった。
サービス力の強化	接遇マナーの向上	毎月1回マナーレッスンを実施する	介護サービス向上には、接遇マナーが欠かせないということで、6月から10分間マナーレッスンを毎月1回実施した。6月は「笑顔」、7月は「挨拶」、8月は「電話対応」というテーマでマナーレッスンをを行った。参加者からは、短い時間の中で大切なポイントが学べ、気軽に参加できてよという評価があった。しかし、9月以降、疥癬が流行し、レッスンの実施を自粛した関係で、マナーの向上に繋がったかどうか疑問であるので、今後も継続して接遇マナー向上に努める必要があると考える。
	生活リハビリの充実	看護師による生活リハビリの実施(数回/週)	ケアプランから導き出されたニーズと目標を落とし込んで個別機能訓練実施一覧表を作成している。おおむね12名の入居者について、看護師が簡易機能訓練を実施してきた。特に、健側を中心に、会話を楽しみながら可動域訓練等に努めた。リハビリ実施表にニーズ、目標、手順を示し、看護師の関りを統一させて行っていたが、各入居者について、患側のニーズも出てきたことから、訪問リハビリ(接骨院)の紹介をさせて頂き、専門家によるリハビリに繋げていった事例が増えた1年だった。
		遊びリハビリの実施(2回/月)	上半期は、月2回実施できていたが、下半期は感染症(疥癬等)があり、実施できなかった。上半期の遊びリハビリの様子については、毎月のお便りに紹介させていただいた。昨年度のご家族に報告をした。昨年度の気付きから、遊びリハビリのレベルアップが必要で、ある程度の評価尺度を使って、ある程度のレベルを目指すこととしていたが、評価尺度自体が、完成に至らなかった。

視 点	重 点 取 組 課 題	目 標 値	総 括
	<p>看取りケアの充実</p> <p>お年寄り目線で見える各種情報の掲示</p>	<p>曾我先生がご家族を交えて看取りの話し合いの必要性を感じたときに、看護師が話し合いの進行役を担う</p> <p>お年寄りの為の情報コーナーの創設</p>	<p>平成24年4月から、曾我先生を交えた「看取りの話し合い」について、看護師が進行役を務め、入居者ご家族の看取りニーズを探る役割を担った。看護師が、進行役を担うことで、曾我先生との連携も深まり、そのご家族も直接、曾我先生に尋ねやすくなったと考ええる。また、参加する職員も、客観的にご家族の思いを受け止める事が出来る場となった。</p> <p>各種企画実施後の写真等をお年寄りやご家族に見ていただけのように、壁新聞を作ったりして情報発信には努めてきた。また、献立表を掲示するコルクボードを購入し、お年寄り目線で献立表が見える環境も作った。その他の車椅子目線で見えるお年寄りの為の掲示物の設置については、環境作りが進まなかった。</p>
<p>サービス力の強化</p>	<p>移乗技術の向上</p> <p>出来ること・やれる事・したいこととしてみたいこと等の実践</p> <p>感染症予防策の習得</p>	<p>定期的な移乗技術の練習の場を確保する</p> <p>お年寄り個々にエピソードを1つ見出す</p> <p>手洗い・グローブ・マスク・フェイスシールドを都度行い、指導者として正しく説明しながら、標準予防策をマスターしているかどうかを評価表に基づいて評価した。その結果、上記7名がA評価＝指導者を取得した。</p>	<p>5月から毎月2回(1回30分程度)、「移乗技術広め隊」のメンバー(向井・野村・田中・佐藤)が中心となり移乗技術が学べる内部研修を実施した。特に車椅子～ベット、ベット～車椅子への移乗技術をくり返し練習し、移乗技術の方法にはいろんなやり方があることを学んだ。「移乗技術広め隊」のメンバーは京都にある紫野庵(青山幸弘氏の介護塾)へ定期的に通い、年間を通じて介護技術力を磨いてきた。</p> <p>入居者個々に薄んでいく「したいこと」「やりたいこと」等を探り、その実現に向けて応援していくことを決めたが、その準備段階でお年寄り個々のニーズ把握の仕方や、実施方法等について統一された対応策が見出せず、なかなかエピソード作りを展開できなかった。しかし、ケアプラン等で見出された個別外出等のニーズについて、担当者を中心として実施につなげ、結果的にお年寄り個々のエピソード作りが繋がったケースが見出された。</p> <p>感染症委員会にて、6月、9月、3月に実技研修を実施して、手洗い・グローブ・マスク・フェイスシールドについて実技指導を行なった。1階は田中、阿部、西田、2階は栗津、新宅、山崎、据の7名が標準予防策を学んだわけだが、実技研修以外にも抜き打ちで実技テストを都度行い、指導者として正しく説明しながら、標準予防策をマスターしているかどうかを評価表に基づいて評価した。その結果、上記7名がA評価＝指導者を取得した。</p>
	<p>ケアプラン・サービスプランに沿ったケアの質の向上</p>	<p>3ヶ月に1回のモニタリングを実施する</p>	<p>9月から策定したモニタリングシートを活用して、回覧形式でモニタリングを開始した。実際行なっているケアの手順等に変更がないか全職員の気が書き込みできるようにしたことで、少しづつではあるが、赤字での書き込みが増えた。しかし、特定の職員が書き込みがない実状があるので、この点については、課題が残るが、3ヶ月に1回のモニタリング時に、ケアプランの再検証ができるので、定期的に員直しを図ることができている。</p>
<p>業務の改善</p>	<p>入居者ご家族様からいろんな気付きを頂き少しでも業務改善に繋げる</p> <p>報告・連絡・相談の充実</p>	<p>ご家族様と気軽に懇談できる場を確保する</p> <p>フロア報告会(仮称)の発足</p>	<p>2月24日に2階フロアにて入居者ご家族をお招きして「わくわくサロン」を実施。3月9日には1階フロアにて入居者ご家族をお招きして「ふれあいサロン」を実施した。ご家族様には、お年寄りの普段の様子等を映像等でご紹介させていただき、一緒にお茶を飲みながら、近況報告をさせていただいた。参加されたご家族からは、知らなかつた母の普段の様子が見えたり、伝わって来たという意見や、職員とゆとりお茶を飲みながら話ができ、距離が縮んだような気がする等のご意見を頂き、合わせて業務改善に必要な「改善案」まで提案いただけたことは、本当に良かったと考えた。</p> <p>6月から毎日15:45～16:00にかけて、フロア報告会を実施してきた。このフロア報告会で、いろんな情報をユニットを超えて横断的に共有ができるようになってきたと考える。それでも、職員全員が情報を共有できるまでに時間がかかったり、伝わって来なかったことがあるので、まだまだ職員全員で迅速に情報を共有する方策を見出していく必要がある。一方で、PC上の掲示物を活用して、全職員に必要な情報を記載し、共有できるようにしたこと、全職員が都度情報を共有しやすくなったと考える。</p>
<p>労働環境の改善</p>	<p>申し送りが可能な勤務時間への変更</p>	<p>9月1日～運出者の勤務時間を13:30～22:30、夜勤者を22:15～翌7:15へ変更した。変更できたことで、勤務時間に15分の重なりが出来、この15分の中で引き継ぎが可能となった。</p>	

視 点	重点取組課題	目 標 値	総 括
業務の改善	労働環境の改善	ナースコール環境の整備	ナースコール環境の見直しを行ったところ、既存のナースコールを生かした環境では、3つのユニットを運動させることが困難であることが分かった(スピーカーだけ導入すれば良いと考えていたが、新たに録音等の導入が必要)。一方で、既存のナースコールでは、特に夏場における夜間帯において、節電対策等によりリビングの窓を開放させていることもあり、近隣住民に苦情が響き迷惑をかけたことがあったので、PHSシステムの見直しを行ったところ、高額なシステム導入になることが分かった。その後、具体的な検討に至っていないが、近隣住民にご迷惑をおかけする可能性が常に考えられるので、改めてPHS導入に向けての検討をしていきたいと考える。
人材・組織力の強化	職員の資質向上と職員教育	部門実行計画書と職員個々の個人目標を運動させて全職員で重点課題に取り組む	職員個々に部門実行計画書と運動させて個人目標を設定してみたが、個人目標に記載する時の表現が曖昧になり、個人目標として評価し難い傾向が全般的に見られた。一方で、各職員が、どの取組み課題に関するのかわからず、相関図を作った上で公表し全職員で部門実行計画書について取り組んでいるという環境を演出しようと試みてはみたが、取り組みをして実績を上げた事例は今年度少なかつたように考えている。
	職員の資質向上と職員教育	効果的な内部研修の充実	サービス残業を軽減する観点から、日中の業務時間内に研修時間を設定して実施してきた。しかし、なかなか多数の職員が一堂に会して集まれないので、少人数での参加率となっているが、地道に内部研修が実施できたと考えている。特に、12月に行った「第二回共に学ぶ研修会」ではアネックスで亡くなられた入居者ご家族をお招きして、アネックスでの看取り体験談を語っていただいた。参加した職員から、ご家族に多くの励ましをもらったことが何より、勇気付けられたとの感想を引き出すことが出来、大変充実した研修となったことが、強く印象に残っている。
		ケアプラン・サービスプランに基づいた職員教育	3ヶ月に1回のモニタリングの場で、今提供しているサービス内容について、問題がないかどうか検証する環境をつくった。検証する中で、今提供しているサービスと入居者自身のニーズとでズレがある場合は、今のニーズに対応出来るようなサービス内容に意図的に修正することが出来るので、職員教育の観点からも、職員個々に点検できる機会が持っていると考えている。一方で、サービス担当者会議では、ケアプラン上に上がってきた約束事について、保障していくことの大切さを常に学ぶ事が出来てきている。

平成24年度 アネックス館 内部研修会 実績

月	日	時間	研修名	参加人数	担当
4月	9	15:00～15:30	移乗技術広め隊	10	青山プロジェクト
	25	15:00～16:00	夜間緊急対応①	7	南看護リーダー
	26	15:00～16:00	移乗技術広め隊	10	青山プロジェクト
5月	10	15:00～15:30	移乗技術広め隊	4	青山プロジェクト
	22	15:00～16:00	流行時期がやってくる！感染症を知って予防しよう！	7	感染対策委員会
	24	15:00～15:30	移乗技術広め隊	8	青山プロジェクト
	28	15:00～16:00	入居者御家族から学んだ見取りケア パート1	10	介護スタッフ
	4	15:00～16:00	感染症から入居者を守る！！最新テクニック教えます！	10	感染対策委員会
6月	11	15:00～16:00	「遊びりは何のためにするのか？」実技と講義で学ぼう！	11	遊びり委員会
	14	15:30～16:00	移乗技術広め隊	4	青山プロジェクト
	20,24	15:00～15:30	防災設備の基礎シリーズ：火災発生時の対応について	11	吉田課長
	19	15:00～16:00	夜間緊急対応②	9	南看護リーダー
	21	15:00～15:40	ほっとできるお風呂について(お風呂祭りについて)	11	青山プロジェクト
7月	12	15:15～15:45	移乗技術広め隊	4	青山プロジェクト
	26	15:15～15:45	移乗技術広め隊	6	青山プロジェクト
8月	23	15:15～15:45	移乗技術広め隊	4	青山プロジェクト
	28	15:00～16:00	夜間緊急対応③	5	南看護リーダー
9月	6	15:15～15:45	移乗技術広め隊	4	青山プロジェクト
12月	19	14:30～15:30	「共に学ぶ」シリーズ『看取り事例から学ぶ』	7	吉田課長
2月	11	14:45～15:45	身体拘束・虐待についてみんなで考えよう	10	松山
3月	19	15:00～15:45	感染症から入居者を守る！！最新テクニック教えます！	10	感染対策委員会

平成24年度事業報告書

報告日	平成25年5月6日
部門名	うらら
責任者	小林 真也

項目	累計 収入	
	稼働率	収入
目標	83.0%	71,331千円
実績	74.2%	83,259千円
差異	-8.8%	11,928千円
達成率	89.4%	116.7%

視点	重点取組課題	目標値	総括
財務状況の改善	月間稼働率の向上・毎月の利益目標	月間稼働率83% 630万/月	稼働率83%は未達成。利益目標は4月と2月以外は630万以上を達成しています。毎月さらさら相談員と同行して居宅周りを行ってきました。毎月の実績報告に加え、利用者の利用状況や変化についても報告致しました。毎回発行している写真やお便りも、家族やケアマネから利用中の様子がわかりやすいと好評を頂いています。今年度からデイフロア一内や廊下に、毎月の行事案内を掲示しています。以前より行事に対する利用者の興味の持ち方に変化が生じてきたと実感しています。法人ホームページのブログを定期的に活用し、情報発信を継続しています。
	外出レクの充実	毎月	前年度から少しずつ外出企画を増やしていき、お花見・大蔵海岸・紅葉・菊花展・コスモスなど、1年を通して季節感を味わって頂けるような外出を随時、行うことができました。毎月3回の買い物ツアーや外出喫茶や外食を楽しんで頂く企画も、毎月実施することができ、参加を楽しみに待って頂く利用者も多数います。
	レク内容の多様化	随時	定期的に余興を披露して下さるボランティアグループも多く、数か月に1回程度来て下さっています。毎月来て下さっていた手話サークルの皆さんは、手話サークルの活動が難しくなれ2月で終了となっています。買い物ツアーのボランティアさんも、家庭の事情や体調不良などで、手控えて下さる方が減少したものの、あかねが丘学園パソコン部のみなさんが来て下さることとなり、買い物ツアーも従来通り開催できています。平成25年1月より、木目込みクラブと題して先生をお迎えすることができ、毎月、参加者が増えている現状です。
サービスの強化	芸術祭の開催	年1回	11月に2週にわたり、1階ハビリコナーをお借りして作品展を開催致しました。年度当初からパッチワーク・ちぎり絵・絵葉書・塗り絵・小物作り・ベッポトル蓋の作品など、それぞれ作業に取り掛かって頂きました。出品作品の売成に向けて、余暇時間の有効な活用の取り組みはサービス向上に繋がっていると感じています。開催中は家族やケアマネも見学に来て下さったり、他曜日の利用者の作品をみて楽しめるなど、デイサービス内での活動内容をご理解頂く良い機会となりました。作品展の開催写真をデイ月刊誌に投稿したところ、1つの作品が評価され、特集で作品DVDに使用されると伺っています。
	利用者アンケートに基づくサービス力向上	随時	7月と3月に「わくわくランチ」を開催しました。事前に利用者アンケートを実施し、栄養士と相談のうえ人気があったメニューを提供しました。通常の屋敷と異なり熱々な料理を取り掛かって頂きました。出品作品の売成にも配慮しました。いつもよりたくさん食べて下さったり、満足な顔や声がかかれて、食事ニーズの高さや雰囲気作りの重要性が実感できた企画が開催できました。
	ケアプランの管理・運用	随時	制度改正もあり、全ての利用者の通所介護計画書の再作成を行いました。要支援と要介護では加算の算定方法が異なり、要支援の生活機能向上グループ活動加算を算定するには、細かなアセスメントや実施記録が必要となる為、生活相談員が要支援のケースを担当することとしました。スタッフの退職などに伴い、各ケースを振り分けれるも、適切な管理や再作成ができておらず課題が残っています。

総括		
視点	重点取組課題	目標値
業務の改善	根拠に基づく業務改善	随時
	業務時間の使い方	毎月
	書式の見直し	毎月
	デイルーム内の環境整理	毎日
	職員スキルアップ	随時
	ケースカンファレンスの開催	随時
人材・組織力の強化		

業務中にヒヤリ・ハットしたことがあれば、ミーティングで報告してもらい、情報の集約に努めました。発生項目・場所・時間別の集計の結果、12時～15時の入浴に関わる業務中に転倒や徘徊の危険性があるとわかってきました。職員の交代やフロアーや浴室に分かれたの分担作業時に危険が潜んでいるので、個々のスキルアップや安全を守る意識の向上が不可欠と思われまます。今後はより詳細なデータ収集を行い、必要な時間や場所に適正人員を配置する業務改善を行っていききたい。

サービス提供時間の変更に伴い、タイムスケジュールの変更を行いました。朝の接茶や入浴時間にゆとりがでる時間設定にしています。残業時間を減らす取り組みもすめ、業務時間内で各種書類の作成が出来るよう業務担当の見直しにも取り組んでいます。

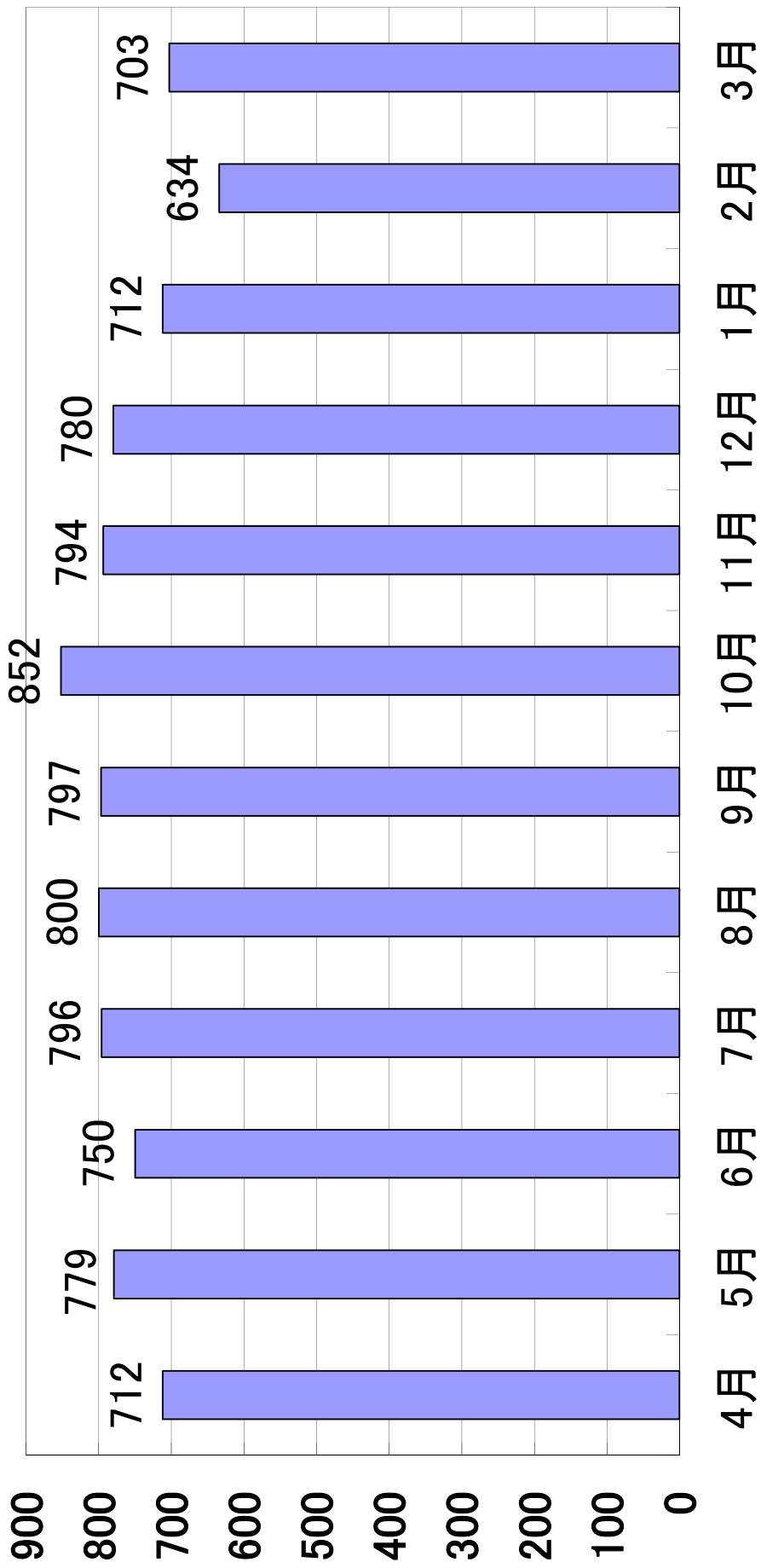
連絡帳の記入項目を見直しました。家族からの記載してほしい内容の依頼があるので、必要な情報を記入できる内容に工夫しました。各書式の使いやすさは、随時、定例会議で見やすさや書きやすさなど確認し、改善を図りました。

定期的に棚の整理整頓を行うも、レク備品などの出しっぱなしが多く見られます。スタッフみんなです声をかけ付けを習慣化したり、デイルーム内の棚の有効活用法は今後も検討していきます。

事故原因や再発防止についての話し合いは毎回行っている。介助に対する視点変化や他者からの助言から学ぶなど、介護方法の意思統一やさまざまな視点が生かされていると感じます。

2ヶ月に1回開催しました。明日から使える介護技術・他スタッフの介護への意識や考え方・通所介護計画の内容の把握・対応が難しい認知症利用者への対応方法など、スタッフみんなです話し合うことでチームとして共通理解で業務ができることや、介護技術の向上・利用者個々のより良い支援に繋がっています。

平成24年度 月から 月別延べ利用者数



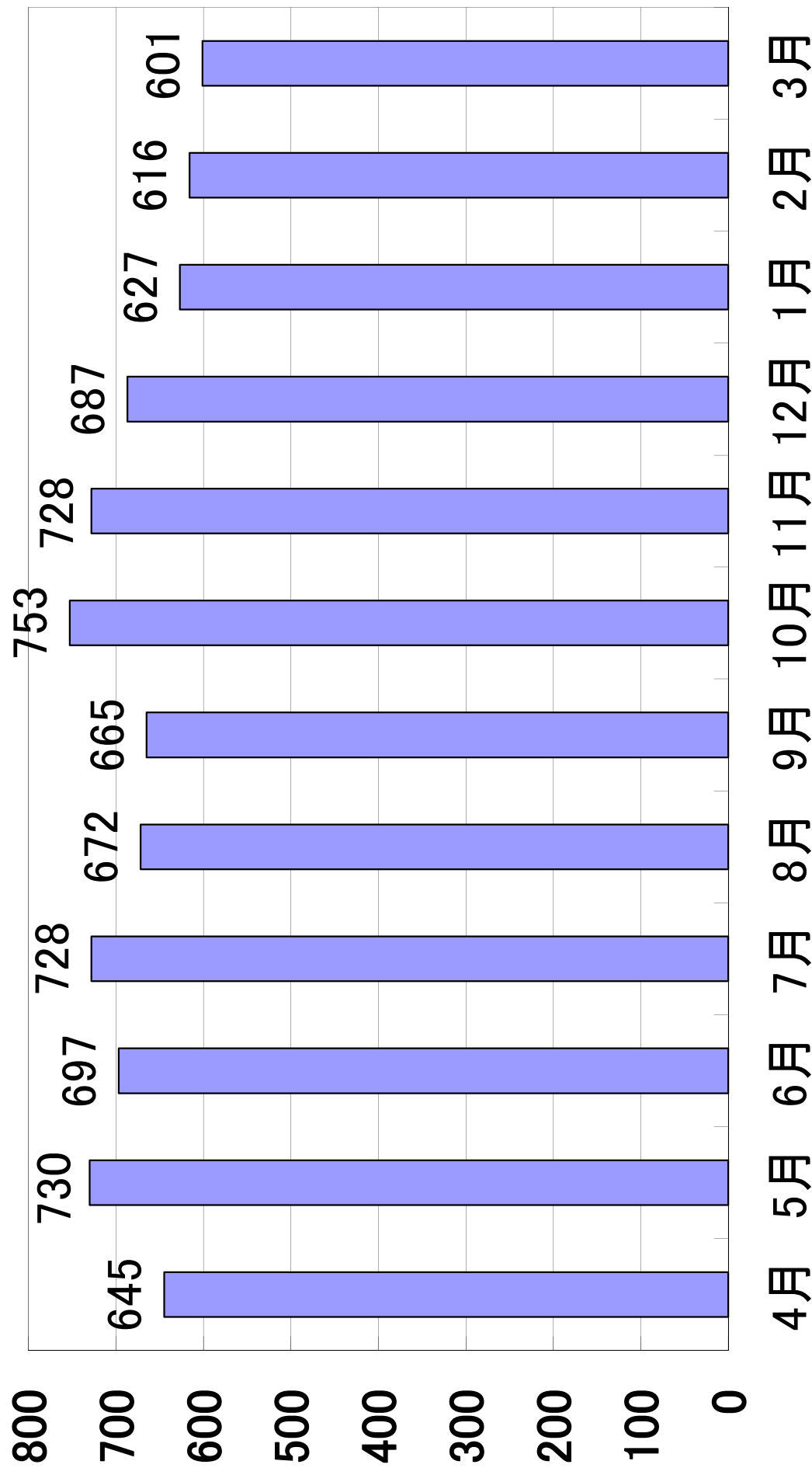
平成24年度事業報告書

報告日	平成25年5月6日
部門名	デイサービス課 さらら
責任者	小林 真也

項目	累計	
	稼働率	収入
稼働率	83.0%	68,860千円
実績	75.7%	73,295千円
差異	-7.3%	4,435千円
達成率	91.2%	106.4%

視点	重点取組課題	目標値	総括
財務状況の改善	稼働率の向上 収入アップ	稼働率83% 収入633万円/月	年間利用実績としては、月収入が630万を越えたのは4ヶ月に留まり、月稼働率を83%を越える月はなく、課題の残る実績となり。毎月の実績報告を兼ねた居宅周りを継続して実施してきました。半年毎にパンフレットを作成し営業ツールとして活用しました。年度末には、さらら通信総集編を発行し居宅ケアマネからも高評価を受けています。新規利用者獲得に向けたの活動としては、体験利用者の様子がわかりやすいように写真を掲載した報告書を担当ケアマネにFAXや配達しました。毎月の行事開催時に臨時利用を募り、年間285名利用して下さっています。
	コスト削減	随時	光熱水費について毎月の定例会議で発表し、スタッフ全員へ無駄の無い使用を促してきました。使用頻度の変動に伴い、原因や対策を講じながら、できるだけ無駄を減らすよう努力を継続してまいります。掃除に関しては、曜日ごとに行う箇所を決め、実行し、予定通り実施できているか、問題は生じていないかを定例会議で確認しながら改善を図っています。トイレ便器からの水漏れ・浴室内の溝の詰まり・脱衣場の洗面台が落ちそうになるなど、設備の老朽化に伴い修理をして頂きました。
	レクリエーション・行事の充実	随時	3ヶ月毎に利用者の意向を伺って、外出企画を実行しました。今年度は外出に特化して、利用者の意向を反映し実施しました。利用者の意向に基づきプログラム作りは、今後も継続していきます。一度行ったレクも内容を改善し実施することで、盛り上がるレクを提供できることもあり、利用者の反応やレク内容の検討について話し合っています。個別のレクについて、毎月、個別活動できる項目を増やし実施をすすめてきましたが、活動提供にはばらつきがあります。
	食事メニューの充実	毎月実施	毎月利用者にアンケートをとり、ご意向を反映した食事提供をすすめてきました。ハッピー御膳・井祭りと題して人気メニューを提供したり、各行事に合わせてメニューを工夫し食事を提供しています。
サービスの強化	ボランティアの充実	随時	月平均3回ボランティアによる余興を開催しました。例年恒例で来て下さる方々も多く利用者も楽しみになって下さっています。利用者とお話し相手を目指す目的としたボランティア依頼はありますが、余興を披露して下さる新規ボランティアの導入はありません。既存の団体では月に3回程度、活動披露に来て頂きました。
	家族支援を行う	3ヶ月に1回	行事など開催毎に家族へ声をかけてみました。都合が合わず実施には至っていない。3ヶ月毎に家族会開催のご案内を差し上げるが、介護者の高齢化や家族の就労を理由に、年間で2組の参加に留まっています。
	地域との関係の駆逐を図る	随時	敬老のお祝いを兼ねて、9月に地域保育園の園児と交流の機会を持たせて頂きました。
業務の改善	通所介護計画書の実行・変更	随時	ミーティング時間を有効に活用し、ケースのモニタリングや個別の支援方法について話し合ってきました。通所介護計画書の再作成時期は、各担当毎に一覧表で管理していましたが、スタッフ個々で作成状況が異なり、管理運用の方法に課題があります。
	環境整備	随時	フロア一全体のレイアウト変更を考察してみましたが、慣れ親しんだ環境の変化には、利用者の混乱もあり、なかなか実施に至れない現状です。曜日毎に掃除箇所を決め、清潔の保持に努めたり、定例会議でも車内やトイレ・ム内の掃除(ゴミの有無)などを確認し、できるだけ心地よい空間で利用者が過ごして頂けるよう全員で配慮しています。
人材・組織力の強化	スタッフのレベルアップを図る	随時	内部研修は計画通り実施し、内容によってはデイサービス課で共同開催を行いました。正社員全員が一定レベルの業務担当をこなすことが出来ており、更なるレベルアップを目指します。新人教育には、プリセプター制度や業務の遂行状況が確認できるシートを活用してより良い教育方法を検討中です。

平成24年度 さらき 月別延べ利用者数



平成24年度事業報告書

報告日	平成25年5月6日
部門名	訪問介護課
責任者	大岡 則文

項目	累計	
	稼働率	収入
収入稼働率		
目標		11,631千円
実績		13,255千円
差異		1,624千円
達成率		114.0%

視点	重点取組課題	目標値	総括
財務状況の改善	<ul style="list-style-type: none"> 新規獲得 	登録者数 40名 月間サービス提供時間 400時間	<ul style="list-style-type: none"> ・3月末時点での登録者数 36名 ・実績報告時参時時の営業活動については1人体制ということもあり、上半期のみしか活動できなかった。25年度は反省を踏まえ全ての事業所への営業をするのではなく、ターゲットを絞って行う予定。また、通所介護課の係長に同行し、居宅介護支援事業所に顔売っていききたい。 ・介護保険外サービスの規定は作成したが、内部体制の整備が不十分であるため、営業ツールには使えていない。
サービスの強化	<ul style="list-style-type: none"> ・接客能力の向上 ・介護保険で出来ないニーズに応える 		<ul style="list-style-type: none"> ・内部研修開催時に登録職員も積極的に参加するよう呼びかけ、参加者には都度接遇について話した。 ・介護保険外サービスに対応すべく規定は作成したが、内部体制の整備が急務であるため、サービス提供は見送った。
業務の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問介護活動記録票(複写)の取り入れ ・訪問介護計画書作成 ・ケアサービス手順書の作成 ・内部カンファレンスとモニタリング ・様子観察記録の記入 	スタッフ全員 利用者全員 利用者全員 スタッフ全員 スタッフ全員	<ul style="list-style-type: none"> ・記録票については新書式を作成し、全職員に徹底した。 ・訪問介護計画書については順次作成している。やや遅れ気味で進行中。 ・手順書は作成できなかった。 ・内部カンファレンスについては、登録職員の来所日に合わせて、全スタッフと開催することができた。 ・細かい情報を記録に残しカンファレンスに活用できる記録を作成した。
人材・組織力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・職員全員の専門性の向上 ・緊急時の体制を整える 	スタッフ全員 スタッフ全員	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士資格取得者も1名おり、資格取得者が多く占めるようになってきた。 ・4月5日13時～14時 参加者7名にて勉強会を開催した。

平成24年度事業報告書

報告日	平成25年4月22日
部門名	地域支援課
責任者	長尾史恵

項目	累計 収入	
	稼働率	収入
目標		34,177千円
実績		32,355千円
差異		-1,822千円
達成率		94.7%

視点	重点取組課題	目標値	総括
財務状況の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・特定事業所加算Ⅱを継続して取得できるようにする ・現在の給付管理数を維持し、年度内に165件の給付管理数を達成する 	165件/月(年度内) ↓ 1名異動があり 135件/月に変更	<ul style="list-style-type: none"> ・特定事業所加算Ⅱの取得については達成。 ・年度内に165件/月の給付管理数の達成については、未達成。年度途中での職員異動があり介護支援専門員の1名減少に伴って、目標値を165件から135件への下方修正を行ったものの、今年度についても、結果的に昨年度と同様に年間を通じて120件前後の給付管理数(予防含まず)が続いた状況であり、現在の給付管理数を維持するという点についてはクリアしたと考える。新規での居宅ケースの契約数は43件(平成24年度)で、新規契約の獲得についても行ってきていたが、体調の変化、長期入院、施設入所、死亡等の理由でのケース減が継続していたと考えられる。 ・予防給付については、年間を通じて30件弱/月の給付管理を行った。 ・認定調査の受託件数は、明石市が304件、市外が4件となっている。
サービスの強化	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所全体でのケアマネジメントの質の向上を図る ・個々のケースへの取組を評価できる体制の構築 		<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメントの質の向上については、年間を通じて継続して課内でのケースカンファレンス、ケース検討会を行った。 ・ケースへの取り組みの強化としては、サービス担当者会議の開催状況の確認と記録、居宅サービス計画書については昨年度と同様に管理による確認も行った。加えて、課内でのケース検討会への管理者の出席を依頼し、個々のケアマネジャーの取組についても把握できる仕組みづくりを行った
業務の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれがコスト意識を常にもって業務にあたる ・個人情報の取り扱いに注意する ・情報伝達手段の見直し 		<ul style="list-style-type: none"> ・紙ベースでの書類が多くなる部署でもあり、可能な限りでの省資源に努めたと考える。(両面の印刷・ファイルの再使用等) ・個人情報取り扱いについては、紙・データとも媒体の違いに関わらず、持ち出しを行わないことを徹底した。 ・情報伝達手段については、電話連絡が圧倒的に多いが、在宅介護支援センター間での連絡についてはメールの使用、また電話連絡の取りつらい担当ケースについてはメールやFAXを使用する等の改善を図っている
人材・組織力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・部署内で忌憚ない意見の交換ができる ・在宅介護支援センターとして、地域でのより所となれるための連携を進める 		<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内での意見交換については、少しずつつではあるが、会議中の発言であったり、部署内でのコミュニケーション量が増加しているように感じられる。 ・在宅介護支援センターとしての地域での業務については、年間を通じての相談延べ件数は2127件、訪問相談の延べ件数は470件となっている。ゾーン協議会の開催その他教室の開催や地区民協への参加を通じて地域へのアプローチが更に欠かせないと考える。今年度は法人の地域向け介護技術講習への協力を行ったが、次年度については、在宅介護支援センターより企画、運営を行っていく予定である。

平成24年度事業報告書

報告日	平成25年4月20日
部門名	グループホーム プリラント朝石
責任者	峰 広貴

収入 稼働率	項目	稼働率	収入
	目標	98.0%	81,324千円
	実績	98.6%	84,089千円
	差異	0.6%	2,765千円
	達成率	100.6%	103.4%

視点	重点取組課題	目標値	総括
財務状況の改善	① 目標稼働率の達成	① 通年98パーセント	稼働率、収入ともに目標値を達成。また、待機者も12名と増えてきている。営業活動は行っていないが、見学に来られる方々からは「よそではなく、ここに」とお聞きすることもあり、評判も悪くはないように感じ取れる。
サービスの強化	① 生きたケアプランを作る	① システムの確立	モニタリング、カンファレンスも含め、一連の流れは定着し、ある程度は形になってきた。今後、プランの内容を曹段から意識しながらケアに当たられるように、記録の仕方やプランの置き場所に工夫をしていくよう考えている。
	② 生活リハビリの実施	② 家事はパートナーだけがするものではない！という風土ができればよい。	『家事を入居さんにも一緒にしてもらおう』という方向性は全パートナー間で共有できている。入居さんの中には、入居時には車椅子を使っていたが、『ゴミ捨て』を日課にすることにより、歩ける距離が伸びた方もいらっしゃる。生活リハビリとして効果があがっている。
	③ 入居さんの生活を施設内で完結させず、地域に出でいくことを日常生活に取り入れる。	③ 出かけられる状況作り	ほぼ毎日、入居さんと一緒に買い物に出かけ、出かけることは当たり前になっている。パート職員1名が入居者さんを乗せての運転が出来ていないが、その他は全員が一緒に出掛けられるようになってきている。土地勘のないパートナーも近くであれば、スーパーがある場所は把握できており、目標は達成したと考えられる。
業務の改善	① 自分の行動の目的や理由を説明できるパートナーの育成	① 行動の理由を聞かれた時に答えられるようになる。	なるべく決め事は会議などで皆で決定するようにしているが、参加していなかったパートナーは理由までは、あまり意識せずに、ただ決まったことを実行しているパートナーもいる。パートナー間の意識の差が大きい所は、今後の課題かと思われる。
人材組織力の強化	② 退職者を出さない	② 退職者ゼロ	退職者はゼロ達成。入居者さんへの対応で悩んでいる場合には、米井を中心に会議をもったり、プリセプターノートにて不安を聞き出すことで対応できた。パートナー同士の不満については、米井、峰久が個々に意見を聞き調整し、退職までには至っていない。

★2012年度 ブリランテ明石内部研修

月 日		内容	担当者	入居者様	出席者
4	25	夏野菜の作り方	峰		米井、塩見、越智、前山、鈴木
7	9	食中毒の予防	峰久		山本、鈴木、越智、藤田、峰
7	10		峰久		松岡、大西、石野、前山
7	13		峰		米井、本多、溝畑、塩見
7	9		峰		山本、鈴木、越智、藤田、峰
7	10	認知症ケア	峰久		松岡、大西、石野、前山
7	13		峰		米井、本多、溝畑、塩見
9	14	ケアプラン	米井		峰久、鈴木、塩見
9	16		米井		越智、前山、峰
9	17		峰		本多、溝畑、大西、石野
9	20		米井		山本、松岡、藤田、峰
11	5	冬の感染症	峰	2階入居者様	溝畑、大西、石野
11	9		越智	1階入居者様	米井、峰久、鈴木、越智、前山
11	10		越智	貝原様	松岡、塩見、越智、峰
11	16		本多		米井、山本、本多、藤田
1	16	食事	山本		米井、本多、前山、藤田
1	18		山本、鈴木	2階入居者様	越智、石野、峰
1	20		山本		峰久、松岡、大西
1	24		鈴木、山本		米井、溝畑、塩見
2	18	認知症ケア	溝畑、大西		米井、鈴木、石野
2	20		溝畑、峰		山本、松岡、塩見
2	23		大西		本多、前山
2	25		峰		峰久、越智、藤田

★2012年度 ブリランテ明石 行事報告

月日	内容	特記	担当者	参加者	
				入居者様	パートナー
4 / 12	花見 (石ヶ谷公園)		米井	9 名	米井・峰久
4 / 15	花見 (王子公園)	お弁持参	峰	9 名	鈴木・溝畑・峰
5 / 4	夏野菜の植え付け	トマト、きゅうり、オクラ他	峰	4 名	峰
5 / 12	お風呂祭り		米井・峰	18 名	当日出勤者9名
6 / 4	少し早い父の日	スナックのような雰囲気を作りお酒を楽しんでいただいた	鈴木	6 名	米井・松岡・越智・溝畑・鈴木
8 / 4	お風呂祭り	生活課・アネックス合同	米井・峰	18 名	当日出勤者全員
8 / 5					
8 / 25	ブリランテ夏祭り	ご家族20名も参加	本多・松岡	18 名	当日出勤者10名
9 / 9	敬老会		越智	16 名	当日出勤者9名
9 / 28	地域との交流	海峡連さんが阿波踊りを披露 (地域の方2名、ご家族4名も参加)	米井	18 名	米井・山本・本多・溝畑・大西・石野 前山・峰
10 / 17	運動会	雨により、室内に変更	溝畑・鈴木 松岡	17 名	峰久・越智・大西・塩見・前山・松岡 溝畑・鈴木・峰
11 / 4	遠足 (ヨーデルの森)	(ご家族5名も参加)	本多・塩見	15 名	米井・峰久・本多・塩見・石野・峰
12 / 25	クリスマス会	ノロウイルスにより、予定を大幅に変更	鈴木・本多 越智・大西	18 名	松岡・本多・越智・溝畑・大西・前山 藤田・峰
2 / 3	餅つき	(ご家族21名も参加)	峰	18 名	当日出勤者 (10名)
3 / 3	ひな祭り		山本・越智 塩見	18 名	当日出勤者7名
3 / 18	くらしのうつりかわり展		峰	5 名	米井・本多

平成24年度事業報告書

報告日	平成25年4月30日
部門名	総務部
責任者	松浦 養

収入 稼働率	項目	累計
	目標	稼働率
	実績	収入
	差異	
	達成率	

視点	重点取組課題	目標値	総括
財務状況の改善	消耗品のコスト削減。 節電、節水。	消耗品の使用量の定数化を図る。 (頻度と適量を把握する) 無駄を省く	<ul style="list-style-type: none"> ・プリンタに関しては、他課と比較すると入居者レベル・日常生活の目的という点が全く異なるため、定数を図ることは困難であった。ただ、1年を通しての使用量データは把握できたので次年度の目標設定は出来たと思う。 ・特養については、今年度感染症が発生したこともあり、一部の備品に関する使用量の増加はあったが、以前同様の感染症が発生した時と比較すると格段に増加するようには無く、全体的には削減できたと思われる。 ・部内会議の資料を両面印刷や裏紙使用にするなど、コピー用紙の使用量削減に努めた。 ・コピー機前に両面印刷と裏紙使用の推進を依頼するPOPを表示した。トイレの手洗い・水洗の止水栓を絞り、使用量の削減を図った。 ・コピー機前に両面印刷と裏紙使用の推進を依頼するPOPを表示した。トイレの手洗い・水洗の止水栓を絞り、使用量の削減を図った。
サービスの強化	利用者ご家族の満足度の向上。 笑顔と真心を引き出す。	コミュニケーションを積極的により、ご利用者、家族の情報を集める。 誤解の解消。 迅速丁寧な対応を心掛ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者家族にアンケートを実施→サービスについては満足しているとの回答が多かった。 ・新規入居者のアセスメントシートを回覧し、入居者の情報がよく分かり、良かった。 ・職員の退職時に手続き等しっかりと説明することにより、退職後の問い合わせが減少した。 ・窓口の角度により、来客者に気付かず待たせてしまいうこともあったため、受付のレイアウト(来場者名簿の位置等)を変更するなど、直ぐに分かるように工夫していきたい。
業務の改善	整理整頓 残業の管理	事務所内のデスクや書棚の整理整頓 業務の洗い出し。 申し送りを徹底。	<ul style="list-style-type: none"> ・期日を決めて、整理整頓をする機械を設けたこと、日曜日の掃除機かけを義務付け徹底したことにより、前年度より事務所の美化を保持できた。 ・前年度と比較すると残業時間は激減したが、一部定時間間に業務を依頼されることもあり、改善が必要と思われる。
人材・組織力の強化	人材の確保	積極的な人事異動を行う。 退職者を出さず、定着させる。 新卒10名確保	<ul style="list-style-type: none"> ・人事異動は総務だけの判断では出来ないが、与えられた範囲内では行なえたと思う。 ・新卒者は2名しか確保できなかった。例年10～12名の新卒者が入職してくるが、今年度は、学校説明会、就職説明会も学生が激減していた。現在その原因を調べている。今分かっている段階では、①福祉の学校を出て一般企業に就職を希望している数が増えている。(関西福祉大学、近畿医療福祉大学の就職の担当者より)②学生の数が減っている。ことが分かっていいる。次年度は新卒者の集め方も考えていきたい。

平成24年度事業報告書

報告日	平成25年3月31日
部門名	プライム江井ヶ島 特養
責任者	竹内 民子

項目	累計	
	稼働率	収入
収入稼働率	98.0%	324,492千円
実績	97.6%	333,007千円
差異	-0.4%	8,515千円
達成率	99.6%	102.6%

視点	重点取組課題	目標値	総括
財務状況の改善	稼働率	98%	今年度は退所者が15名、入所者が16名であった。退所者の内訳として死亡9名、長期入院4名、在宅復帰2名、入所者は居室8名、老健から6名、医療機関から2名を受け入れた。退所後の新しい入所者の受け入れは、昨年同様概ね1週間で入所はできたが、入退所の件数も多く、延べ入院日数について459日ということで、結果として目標稼働率を達成することはできなかった。中でも医療依存度の高い入所者の入院日数は全体の約1/3を占め、治療が順調に進まず入退院を繰り返すケースが目立った。介護事故を原因とする入院については、誤薬、誤嚥、転倒が上げられ、中には防ぐことができた事故もあった。これについては、来年度のリスクマネジメント委員会の取り組みに活かしたい。
	コスト削減	消耗品の削減 電気、ガス、水道代の5%削減	エコタオル用のほろ布は、逝きされた入所者の衣類を譲り受けたり、職員が持ち込んだりして何とか確保できている。排泄の後始末や掃除などにフルに活用できるように、清拭用のタオルの使用量が23年度に比べ4分の3程度に減った。しかし、ほろ布を切る時間や人手が確保できなかった。ユニットで時間を怠り、ゴミで時間を怠り、ポランテアなどを募集して常に切ったものがある状態をつくりたい。今まで使いにくかった備品持ち出し表を新たに記入しやすく、使用頻度も分かり易くした。消耗品についてはユニット毎の把握が難しく、家事探訪検討会が中心になり、持ち出し表を利用して施設全体の使用量を把握し、コスト削減の意識を高めていきたい。
			扇風機1台ユニットに購入する。冷房の温度を28度に設定した。節電の意識が高まり、前半は頑張ったが、停電の不安が治まるにつれ、例年と変わらなくなった。9月まで電気代6.2%節約できた。冬になり、暖房の温度を22度に設定したが、一部の家族からリビングが寒いという苦情があった。
サービスの強化	介護サービスの向上	おむつ代230万円 サービスとケアプランの連動	昨年度のおむつ代約210万円に対して、今年度は約242万円と大幅に増加し、目標を達成することはできなかった。目標を達成できなかった要因としては、トイレで成功する回数が増えたことや個別のニーズに対応しておむつやパットを導入したこと、失禁を想定してその人の尿量に合わせておむつやパットを選んでおむつやパットを置き過ぎず、トイレで排泄したい、パットの中に排泄することは気持ちよく排泄できるようにすることを職員間の共通理解として排泄ケアに取り組みていかなかったこと、またその働きかけが不十分であったことが挙げられる。11月に排泄ケアの在り方についてリーダー会議で話し合ってから、ひと月20万円切るようになって、働きかけのタイミングとしては数字が物語る通り運かった。パットの種類については、従来の3種類から4種類に増やし、コスト削減を図った。
	利用者満足の向上	丁寧な言葉遣いで接することができる。頼しみを込めた関わりができる。	①24時間シートは入所後初回プラン作成までに完成するという流れは定着した。②ケアプランの見直し時期に24時間シートの見直しも出てくるが、提出の仕方に差があり、統一が必要。③入所者の状態が大きく変化した場合は見直しと変更申請を行った(変更申請3名)。介護度3の入所者のレベルが上がり、要支援2となり、在宅(サ高住)復帰した。④家族に面会時や電話で意向を聞いて、カンファレンスまでできなかった。次年度の課題とした。⑤ユニットによって差があった。1年を通じてケアプランのケース入力が出来ていない職員が2名いた。⑥1月から3月にかけて記録の勉強会を開催した。ビデオで場面を撮影し、記録を書くという初めての取り組みを行った。
		気持のいい環境で過ごせる	5月に家族を対象に「利用者満足度調査」を実施した。寄せられた意見としては掃除が行き届いていない、入所者の身だしなみが整っていない、職員の言葉遣いが気になる、職員にゆとりが感じられない、レクや外出が楽しめていないが多く上がった。この貴重な意見に対しては施設目標として毎月取り上げ、職員全員で改善に取り組み、成果も見られるようになってきた。頭の障りや目やにといった整容の乱れは、特に家族の目に付きやすいところであるため、素早く綺麗に丁寧に行き届くようにケアの方法を共有した。また、ユニットの職員だけでは難しい車椅子の清掃については、利用者協力して取り組むことができた。今後の課題としては日にちが経つと元の状態に戻りやすいこと、タイミングよく繰り返し目標に向けていくことで一定のレベルを保てるようにしていきたい。

視点	重点取組課題	目標値	総括
	利用者満足の上	その人らしい排泄ができる	ポウカーパンは定着したが、トイレ誘導時、「長く座っていれば出る」という考えがあり、トイレの滞在時間に対して疑問の声が上がった。高齢者体験実習で長時間トイレに座られるのは苦痛で耐えられなかったという実体験を生かし、次年度からはトイレに座る時間について見直しを行っている。
		爪切り介助で怪我が減る	爪切り介助による怪我は、わずか4件にとどまった。爪と皮膚の接触面を十分に確認して浅く切り、最後にやすりで仕上げる方法については職員の仕事として身に付いた。爪切りの種類も増やし、更に爪切りの介助がしやすくなったという声も聞かれた。
		速やかに発生情報を共有できる	事故発生時の対応手順について見直しを行った。これまでは、事故発生時、発見した職員が医務室、相談室、家族へ連絡していたが、発見した職員が事故対応に専念できるようにするため、発見者は医務室へ、相談室は相談室へ、相談室は施設長へという流れで連絡体制を変更した。見直し当初は速やかに連絡が行き滞っていたが、日が経つと連絡漏れが目立ち、数日後に知る、また、事故報告書で知るところが増えた。課題はあるが、昨年と比べて早い時点で情報を共有でき、事故後の対応や対策について他部署も一緒に取り組める回数が増えたことは評価できる。
介護事故の削減と防止		防げる事故を減らす	今年度は軽微な事故から重大な事故まで、約100件の介護事故が発生した。そのうち、入院に結び付く重大介護事故の発生が下半期に2件発生。転倒による骨折と服薬介助のミスであり、ともに防ぐことができた事故と言える。誤薬事故に関連する課題として度々リスクマネジメント委員会で意識付け再発防止に取り組んできたが、本人の目の前で名前と飲む薬を声に出して確認するルールそのものを全職員に徹底させることができなかった。薬の危険性について職員が学ぶ機会を作ることも、全員が服薬介助の声出し確認ができるようになる方法（徹底の仕方）について今後検討していきたい。リスクマネジメントの勉強会では、「清楚時に滑む危険」というテーマで2月に3回実施した。ベアになり滑脱介助を行うことで、身体との辺りに圧力がかかり、内出血や剥離を起こしやすいかなど、介助される側になって初めて分かったという職員が多かった。その他、朝食時のホテルバンの上げ下ろしの方法や夜間の転倒・転落リスクが高い入所者の表の見直しを行った。また、今年度は重大事故に至らなかったが、トイレの便座から転落する事例が多かったことについて、次年度も引き続きリスクマネジメント委員会の課題とする。
サービスの強化		集団感染を防ぐ	感染の被害を最小限にする取り組みとして職員にできることは『持ち込まない、広げない』ことであり、まずは出勤時、外出先から施設に戻った時の「手洗い、うがい」を励行する約束事を全職員で再度統一を図った。また、感染が疑われる場面で迅速に処理・対応が行えるように、感染症防止委員会の委員が責任をもち、感染対応用のバケツチェックを行ったり、施設内研修会で職員がカウチングと嘔吐物の処理方法を修得するために、流行期に合わせて年3回実施した。日頃から施設医、看護士などから地域の感染症の発生状況など感染に関わる情報を職員に提供することなども、職員の感染に対する意識を高める上で有効な方法となった。特にインフルエンザやノロウイルスについては感染が疑われた時点で検査や隔離、消毒、マスク着用など、医務室が先頭に立って速やかに対応をし、施設内の集団感染を防ぐことができた。
感染症予防		結核予防の取り組みを充実させる	昨年度までは、嘱託医の医療機関で胸部レントゲン検査を行っていた。しかし、その医療機関まで送迎できるのは一日3名程度に限界だったため、教日間にわたる送迎と付添いが職員の負担となっていた。その後、出張検診の存在を知り、早速教日の検診費用を調査し、ポータル撮影ができ、金額も他社よりも廉価な関西健康福祉協会に委託することにした。7月下旬に2名の入院者以外の68名の入所者の検診を実施した。わずか1時間半で終えることができ、これまでの職員の負担は随分軽くなった。出張検診の費用は189,000円であったが、そのうち76,794円の補助を受けたため、実質施設負担は112,206円となった。2月に看護師が介護サービス事業者連絡会の結核研修に出席した。その際配布された結核対策マニュアルを基に現在感染対策委員会において自施設に適したものに修正を加えているところである。
地域との連携		デイ浴室開放構想を具現化させる	今年度もデイ浴室開放について検討した。ポランテアの確保については地域が担当し、地域で呼びかけを行うことが決まっております。その他解放日時やポランテアの役割など具体的な部分は8月に「ひらき会」を開催し、施設側で案を取りまとめた。8月末、10月末には地域の連合自治会長や江井島地区自治会長など委員会と会合を定まり、施設側の案と地域の考え、解放に向けて様々な課題を確認することができた。特にポランテアの確保についてはポランテア確保が困難であるうえ、ポランテア同士の役割分担が決まらないう点。また、当施設の立地の面から今のタクシーの巡回ルートでは東江井や西島からの利用客は期待できないという点が挙げられた。そこで、西江井高年クラブが「デイホール」を使い、そのメンバーで役割分担（入浴する人、見守りする人、受付する人）を決め、デイの浴室開放でどのような問題が発生するかを探ることを目的で試験的に実施したい。」との考えがあるとのこと。

視 点	重 点 取 組 課 題	目 標 値	総 括
サービス力の強化	広報活動	施設のPR	既存のホームページに法人理念、介護方針、ブログを追加し、デザインも変更して、12月にホームページをリニューアルした。地域の人に当施設が行っている介護の内容が十分知られていないと考えられ、実践している介護の一部でも伝える手段が手段が出来て良かった。しかし、裏返せばそれだけの介護を最低限提供する必要性と、どれだけの介護を最低限受けられるという本人・家族の価値観がそこに生まれるということでもあるため、引き続き目的意識を明確にした介護を提供できるように努めた。
業務の改善	業務の効率化と残業の管理	施設全体の業務をマネージメントし、入居者とのゆとりある関わりを取り戻す	ユニット業務を洗い出したところ、従来他部署が担っていた業務の多くを当該施設で介護職員が担当していることが分かった。そこで、いくつかの業務について検討したが、ユニットの構造上、他部署が担当できない業務があり、結果的に見直しが出来た業務は3例にとどまった。受診の付添や退所時の居室の清掃については他部署が行い、車椅子清掃については用務員と介護職員で協力して行うこととした。また、し勤の動きについても見直し、今ではリベロ的な動きができるようになった。日々の業務、とりわけ家事の導線の見直しという点では、まだ課題があり、家事援助検討会で検討を続けている。その他、業務の負担と感じている書類については、今後見直す予定である。
業務の改善	業務の効率化と残業の管理	医務のフォロー一担当制を定着させる	フォロー一制は医務室の中では定着しつつあるが、まだ全職員に浸透していない。医療機関受診の頻度が多くてフォロー一制で動けていないのが現状である。
業務の改善	業務の効率化と残業の管理	間接介助の効率化	①洗濯については24年度は一番に力を注いだ部分で、洗濯の技術のレベルが向上した。しかし洗濯物の片付けが出来ておらず、時間のロスがますます多くなかった。年度末の反省点として全体的に掃除が不十分な点が一番に挙げられる。汚れるの都度小まめに拭くという意識とエコタオルの使用を今後も徹底していきたい。②記名については8割がたできてきた。③エコタオルの浸透と便失禁の後始末グッズの使用により、便の後始末はスムーズにできるようになった。
業務の改善	業務の効率化と残業の管理	職員同士の声の掛け合い、申し送りの徹底	日誌の工夫により情報漏れは少なくなった。声の掛け合いはユニットによって差がでている。異動した職員から前のユニットは声掛けが出来ていて仕事しやすいかったが、異動先のユニットは声の掛け合いが少なく仕事がいかにくいとの意見があった。ユニット個々の指導が必要と感じた。
人材・組織力の強化	職員資質の向上	考えて仕事をすすめる職員を育てる	①次年度から基本のき勉強会初級編としてアンケート、ロールプレイング、実習の3本で行うことが決定した。③有志による高齢者体験実習(jibabab体験)は全員が行う実習になり、毎月3名づつが1日、ユニットで介護される高齢者の体験をした。「利用者への気持ちや思いやりなど言葉でわかっているが実際に体験してみても分らないことが多いと多々あり、研修を通じて利用者の気持ちに近づけたと感じる。この経験を忘れないために半年後に振り返りアンケートを実施している。②早出の日勤リーダーとしての動きは経験により差があり、全員が出来ていない。指示を出すことが難しいようだ。④目標締切に慌てた職員が多かったように感じる。忘れないための工夫や目標の立案が大切と感じた。

特養入所者データ

平成24年度プライム江井島 特養要介護度別分布表(25年3月31日)

要介護度	男	女	計	構成比率
要介護1	0	0	0	0%
要介護2	0	4	4	5.7%
要介護3	4	13	17	24.3%
要介護4	7	21	28	40.0%
要介護5	3	18	21	30.0%
計	14	56	70	100%
平均要介護度	3.93	3.95	3.94	

平成24年度 プライム江井島 特養年齢分布表(25年3月31日)

年齢区分	男	女	計	構成比率
60歳未満	0	0	0	0%
60歳～64歳	1	1	2	2.9%
65歳～69歳	1	1	2	2.9%
70歳～74歳	3	1	4	5.7%
75歳～79歳	2	2	4	5.7%
80歳～84歳	4	10	14	20.0%
85歳～89歳	1	21	22	31.4%
90歳～94歳	2	14	16	22.9%
95歳～99歳	0	6	6	8.6%
100歳以上	0	0	0	0%
計	14	56	70	100%

最高年齢 99歳

最低年齢 64歳

平均年齢 85.4歳 (男性 78.4歳 女性 87.2歳)

平成24年度 プライム江井島 特養稼働状況表

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

	入所	退所	退所理由	入院日数	外泊日数	空床数	実日数	所定日数	稼働率
4月	4	2	死亡	38	0	26	2,036	2,100	97.0%
5月	0	0		20	0	0	2,150	2,170	99.1%
6月	1	1	死亡	24	0	11	2,065	2,100	98.3%
7月	0	1	長期入院	99	0	2	2,069	2,170	95.3%
8月	2	1	死亡	61	0	18	2,091	2,170	96.4%
9月	2	2	死亡	5	0	12	2,083	2,100	99.2%
10月	0	1	死亡	5	0	27	2,138	2,170	98.5%
11月	2	2	死亡、家族都合	35	0	11	2,054	2,100	97.8%
12月	3	2	死亡、長期入院	66	0	15	2,089	2,170	96.3%
1月	1	1	長期入院	58	0	6	2,106	2,170	97.1%
2月	1	1	長期入院	32	0	7	1,921	1,960	98.0%
3月	0	0		0	0	0	2,170	2,170	100.0%
計	16	14		443	0	135	24,972	25,550	97.7%

平均入所期間 3年10ヶ月 (男性 3年7ヶ月、 女性 3年10ヶ月)

平成24年度事業報告書

報告日	平成25年3月31日
部門名	プライム江井ヶ島ショート ステイサービス
責任者	横岩 大輔

項目	累計	
	稼働率	収入
収入 稼働率	90.0%	42,069千円
実績	87.1%	42,242千円
差異	-2.9%	174千円
達成率	96.8%	100.4%

視点	重点取組課題	目標値	総括
財務状況の改善	<p>目標稼働率の達成</p> <p>顧客の確保</p>	<p>90%</p> <p>新規利用者のうち半数以上をリピーターにする</p>	<p>稼働率87.1%。上半期は利用日数が多い利用者の入院などでキャンセルがあり、その空室を埋めることが出来なかった。新規利用者は増えているが、希望が土曜、日曜日が多く利用が来にくい状況であった。下半期は相談業務の担当が出来るようになったため、定期利用者の利用延長や追加利用、新規利用者の受け入れにも対応できた。また利用キャンセルの対応も速やかに出来たこと稼働率も上がってきた。来年度は下半期のように迅速に対応できる環境を維持しながら、1～2名のロング利用受け入れ、安定した稼働率達成を目指す。</p> <p>新規利用者28名中リピーター14名。新規利用者の半数以上が2回目以降の利用があったが、希望日程が偏っていたため定期的な利用に繋がらなかった利用者数名ある。3月からロング利用者を1名受け入れた。来年度も利用者本人・家族の利用目的に沿ったサービスを提供して継続して利用をしてもらえようとする。</p>
サービスの強化	<p>利用者個人にあった介護方法を統一して行う</p> <p>清潔な生活空間の提供</p> <p>利用者が自宅ではできない楽しみを実現する</p>	<p>毎月利用のある利用者半分</p> <p>清掃マニュアルの作成と実行</p> <p>毎月1回以上</p>	<p>ケースファイルの変更を定期的利用者の分は確実に出した。また、看護師・栄養士と協力しながら食事・排泄の状況が分かる用紙を見直し、改良して使用している。薬の情報も変更し速やかに対応できるように見直した。下半期は入所時の居室準備が統一して行えるように見直した。来年度も情報を見直し、更新し、使いやすいように工夫しながら情報の共有をしていく。それをもとに利用者個々に適したサービスを提供出来るようにする。</p> <p>ユニット内の整理整頓をすることで無駄なものを減らすことが出来た。使用しにくかった物の置き場所や別のものに変更することで使いやすくなっている。居室の掃除が不十分であったり、床の汚れが目立ってきているので、来年度の課題として効率的な掃除が行えるようにしていく。</p> <p>毎月1回以上の外出や施設内での催しはできた。引き続き利用者一人ひとりの楽しみを実現するため、情報を収集し、企画・実行を全職員で行っていく。その際、無理のない計画で安全に楽しめるものを実施していく。</p>
業務の改善	<p>介護業務、相談員業務の分担を行うことで、業務の質と効率を上げる</p> <p>他部署との業務内容を見直し、連携向上を図る</p> <p>時間外労働の削減</p>	<p>相談員の業務分担をし担当を一覧表にする</p> <p>業務内容の簡略化</p> <p>業務の省力化</p>	<p>服部に空室状況のFAX送信・管理や実績送付の準備を任せ、その他は2人で分担しながら行った。下半期から無難に業務が出来れば、稼働率UPIに繋がってきた。谷添にも徐々に業務を指導して来年度から3人で業務が行えるようにする。他の職員にはケアマネや利用者家族からの電話での対応が出来るように指導していく。</p> <p>利用者の入所時の菓子エツックの際に看護師と話し合い、利用者家族にも協力を求め、エツックの簡略化している。簡略化する者との食事情報がすぐエツックできるようにリストを作成した。その上、情報交換のためのノートを作成し、連絡漏れがないようにした。来年度も看護師や栄養士との連携しやすいように業務内容を見直し工夫をする。</p> <p>業務時間内に行える業務は周りの職員も協力している。相談業務については業務時間内で行えないことがあり、まとまった時間を確保していくが、少しでも空いた時間を利用して業務を行えるようにしていく。</p>
人材・組織力の強化	<p>気持ちの出せる環境作り</p>	<p>退職者ゼロ</p>	<p>退職者は出なかった。今後も正職員に対しては人事考課の目標達成実績を綿密に行う。毎月1回の面接を通じて、個人の近況をも確認し、サポートをした。同様にパート職員に対しても日頃の声掛けから様子を觀察し、動きやすい環境を作っていく。</p>

平成24年度事業報告書

報告日	平成25年3月31日
部門名	プライム江井ヶ島 デイサービスセンター
責任者	西海 和彦

項目	累計	
	稼働率	収入
収入稼働率	76.7%	47,078千円
実績	67.4%	45,823千円
差異	-9.3%	-1,255千円
達成率	87.9%	97.3%

視点	重点取組課題	目標値	総括
財務状況の改善	利用者数の増大	1日平均23人	今年度から法改正に伴い、サービス時間帯の延長並びに小規模事業所から通常規模事業所への変更により利用者定員が30名となり、1日当たりの利用者数の目標値を上げ、収入増大を図ってきました。定期的な居宅廻りに加え、ケースのない居宅に対しても営業活動を展開することによって体験利用者の紹介などに繋がることができ、11月頃まではほぼ毎週に利用者を増やすことができたが、それ以降入院、死亡などに加え冬場の体調不良のため急激に休止者が増え、目標値達成には至りませんでした。反省点として例年利用者数が減少する傾向の見られる冬場までに利用者数をMAXまでの獲得が今後の課題となりました。
		毎月実施	毎月、利用者家族やケアマネ向けに年間行事写真や日常実施しているレクリエーションなどの活動写真などを通じて利用者の身近な様子を伝えるようになっている。写真で視覚で情報を伝えることが解りやすく、家族にもケアマネにも双方有効な手段として好評を得ています。
サービスの強化	機能訓練	随時	更新し及び変更利用時に利用者の日常の心身の状態を把握し担当者会議の場で適確な情報としてケアマネに伝え、協議し利用者サービス改善に資するよう取り組んできました。
		毎月実施	今年度後半にホームページによる広報活動としてデイサービスで行われた主だった行事をブログを通して広く情報として広めました。
		年内実施	ケアマネや居学向けに宣伝ツールの改良に取り組んで一目でデイサービスのサービス内容がわかるように仕上げました。が、なお一層改良の余地があるので、次年度以降の課題としました。
		毎月実施	毎月、定期的開催するレクリエーション会議で翌月に行う行事を検討してきました。その中で日常利用者個人が外出することが困難なため、買い物や外食など毎月希望者が多いため、選択メニューとして数多く取り入れてきました。また、地域のボランティア(川柳教室、書道、体操教室、音楽療法)には継続して定着してなってきました。そして新規のボランティアとして(地域の高校生)の楽器演奏会、ジャズコンサート等)が新たに利用者の好評を得るようになってきました。
		毎月実施	法改正に伴い、最初は個別訓練計画書の資料を取り寄せ検討したが、結局機能訓練IIを取っていくことにしました。サービス時間内の訓練計画、職員配置計画など準備期間を要し、年度後半になってようやく実施し加算出来るようになりました。今後さらに書面等改良する必要があります。
		毎月実施	レクリエーション会議で話し合い作成した「プライムだより」毎月家族に配布してきました。利用者はどのような行事があるかいつも楽しみにしていて、当日の行事を即答する方が増えてきました。また、行事の内容によっては臨時利用する利用者も目立つようになっています。
業務の改善	環境美化	随時	サービスプラン担当者を決め、新規並びに更新月には迅速に評価、見直しをするようにしました。
		随時	各職員が業務時間内に事務処理(サービスプラン作成、行事企画等)希望する者があれば、業務に差支えない時間帯に処理することによって定時に終えるように努めました。また、デイ会議等で行事企画、介護統一、1ひやりはつと」は定期的な部署内で発表することなどで事前準備を行い時間短縮に努めてきました。
		随時	レクリエーションで行うゲーム時などに綿密に後片づけ、各職員の机の整理等を徹底することによってデイサービスの美化に努めてきたが、まだ意識の統一が不十分な点があるので、各職員が十分意識して取り組む必要があります。
人材・組織力の強化	介護知識・技術の向上	毎月実施	施設外研修は各職員に情報提供し、日程調整の上、自発的に参加してきました。参加した職員は報告書またはデイ会議等の場で発表し、他の職員にフィードバックしてきました。また、部内研修は各職員が勉強したいテーマを決めそれに取り組みました。また、新人研修等もあり、希望する他職員もその基礎研修に参加し、勉強できるようにしました。